

# 座談会 I

## 女学校時代の 思い出

日時 平成二十二年一月八日(日) 一〇時三〇分  
会場 本校応接室

司会 鈴木 慧氏(水高第七回生・記念誌編集委員長)  
参加者 高橋 貞子氏(高女第一三回生)  
浅倉 牧子氏(高女第一五回生)

城 康氏(高女第二〇回生)  
小野 伊豫氏(高女第二一回生)



司会 今日では高等女学校時代の思い出をご紹介  
いただきたいと思ひます。どうぞよろしくお  
願ひします。

司会 これはおそらく皆さん懐かしい写真だろ  
うと思ひます。たまたま我が家にありまし  
てね。

皆 ああ。

小野 昔の女学校の、吉小路の

城 ええ、そうですね。桜並木の。

高橋 印象的ですね。この桜並木が。この奥

のところが校舎ですか。

司会 校舎だと思いますよ。

高橋 裁縫室か、作法室か。

城 作法室は水沢小学校に近い方だった。

司会 そう、水沢小学校に近い方だった。おそ

らく時代によって校舎が多少変わってはいま

せんか。

小野 私たちの時は、校長室の二階の所が正面

司会 正面が入り口ですね。そしておそらく



城 康さん  
(昭和21年卒)

左側に校長室。

浅倉 松の植え込みが前にあったんですね。

よく写真に写っていて懐かしい。

司会 ちょうど西側の方の校舎の前の方にテニ

スコートがあつて

高橋 そうですね。その左の方が体育館じゃな

かった？違います？玄關入って、昇降口入っ

て左の方の奥の方に音楽室とか。

城 そうそう、バスケットのコートがあつた

んですね、西側に。奉安殿の所。

司会 私はあそこに二回縁があるんです。中学

校の一年生の時が、女学校の校舎なんです。

で、家庭科の部屋がありますよね、北の方に。

その家庭科の部屋が私たちの教室だったんで

す。家庭科の部屋よりも東の方に平屋の新校

舎が二つほど建てて、そこに他の一年生が

入った。二年生の時は商業高校の校舎だった。

そして三年生の時はまた女学校の校舎の方に

戻って、二階で五月か六月あたりまでそこに

いて、その後は今の水沢小学校、いわゆる当

時の中学校ですね、あのととき中学校の時いた

んです。今の水沢小学校、中学校三年生の十ヶ

月ぐらいですかね。

小野 道路のすぐの所に商業学校あつて、私は

寄宿舎に入ったもんですから、寄宿舎の板塀

の節穴から商業の人たちにととき覗かれた

りして…(笑い)。

浅倉 私も弓道部だったからね。あそこから矢

が越えて飛んでいくと拾いに行くのに、誰も

行かなくて(笑い)…。あんな若いから行き

なさいなんて言われましたね。

司会 寄宿舎は校舎の裏でしたか。

小野 ええ、寄宿舎は校舎の裏で、北側ね。

### 戦争を前に

司会 結構修学旅行は行ってるようですね。

高橋 今日は、写真を持ってきたんですね。修

学旅行のね。しまっておいてね、アルバム開

いたらちよつと破れたので貼って来ました。

ここに写っているのがこれが四年生全部です

ね。そのときは、二見浦、関西まで行ったん

ですね。

司会 当時すでに京都、奈良まで行ったんです

か。

浅倉 私たちの時の修学旅行は、戦争の影響が

出てきて、これでもう最後かもしれないとい

う時期で、さらには各校で単独に企画できな

いということ、四年生の時に岩手県の女学

校が同じ列車を借り切つて、一回で乗って

行つて来たんです。盛岡高女なんか一緒で

ね。写真も隣の違う制服写つてたりして。合

同で。これで最後というので。

小野 国語の先生が担任だったもんですから、

それで網島に行った帰りに、みんなで記念誌

作ろうということになりましたね。城さんが

委員長でした。九十何人の内五十何名かだっ

たかな。

私達は、戦争中なので修学旅行はありません

でした。それで修学旅行も兼ねて卒業して



鈴木 慧 さん  
(昭和30年卒)

四〇年近くたって動員の地だった川崎・横浜方面を訪ねるクラス会をしました。

統導して下さった菊地先生も一緒にしたので、その帰りに動員での記念誌を作ることになりました。城さんが委員長で九十何人の内、五七、八人から原稿が集まり、「心に残る六〇日」を作ったのです。

**高橋** そんなにいらしたんですか？一学年で。

**小野** 甲組と乙組一緒に…

**高橋** 甲組、乙組一緒に四〇人ならなかったよ。うな気がしますよ。

**司会** そうですか。

**城** 疎開者が入って、結構たくさんいて。

**浅倉** ううん、疎開の問題があったんですね。

**司会** 遠足なんかは、市内というか、狛鼻溪や厳美溪に行ってますね。

**高橋** 行ったかもしれないね。わたしなど、別の学校とごっちゃになって、ちよつと分かんなくなってますよ。

**司会** 卓球大会が優勝したりして、籠球も結構

いろんな時に優勝してますね。

**高橋** 私たちの時は優勝はしませんが、盛岡二高、白梅とやって負けたんですよ。

**浅倉** 田村光政という、バスケットの鬼と言われた、岩手県でも有名な体育の先生がいて、籠球が強くなったんですよ。黒中からいらして。

**小野** 私たちの時もいらしたんですよ。

**城** 私も女学校のすぐそばに家がありましてね、その垣根から見えておりました、バスケット見てね、おもしろそうだなあと思って、まだ女学校に入る前から。

**高橋** 皆さんね、早くお帰りになってお家で読書したり勉強するでしょ、その頃私たち一所懸命汗だくなって、稽古でしょ。そうするとお腹空いてね、勉強どころでない(笑い)。

**浅倉** 先生の指導はたいしたもんでしたねえ。  
**高橋** それでね、ほかより水沢女学校が強くなって。

**司会** 強くなったんですよ。

**城** 川崎さんなんて、背が高くて上手だった。

**小野** 音楽室から、音楽の時間にバスケット見て先生に叱られた。(笑い)

**城** 私たちの時も、バスケットもバレーもあつたんですよ。セッターやってた若柳の千葉、なんとおっしゃったか、その方今もお元気ですけどね。セッターでがんばっていらしたのを見て、私たちもしたいなと思っただけ、もう私たちのころはなくて、最後に蹴球ってね、公園で学年対抗だったか、一回

やって、それが体育でみんなと一緒にした後だった。

**小野** 勤労奉仕に行ったりして、一年生の時くらいですね、勉強をまともにしたのは。

**司会** ああ、なるほどね。

**小野** 開墾に行ったりしましたもね。

**司会** それは浅倉さんの場合はないわけですか？

**浅倉** 私たちのときはないですね。

**高橋** 私たちのころはないはずですよ。ちょうど大東亜戦争が入る境目あたりで、満州事変とか日支事変があつてね、いろいろあつたんですよ…

**浅倉** まだね戦雲が濃くなって来たというころで、たとえば頭にパーマネットをかけるのが禁じられて、こっそりおしゃれの生徒がする学校から注意された。私天然パーマだったからね、言われてね。うんと涙ぐんで抗議に行つたことありますけれどもね。そういう風なものでしたね。そのように厳しくてね。そういう空気がじわじわと迫ってくる時代でしたね。

**高橋** とにかく服装とか、そういうのは厳しかったですよ。

**司会** すると学徒動員というのはお二人(小野・城)の時だけですか。そちら(高橋・浅倉)の時はまだですか。

**浅倉** 大東亜(戦争)になってからですね。

**城** 私は終戦の次の年の二年の春に卒業しました。小野さんは五年生までいらして…。

**司会** ああ、だから二二年までなんですね。

**高橋** 普通ほかの女学校は五年生だと聞くんですけど、どうして水沢だけ四年生だろうと思つてたの。やっぱり五年生があるんですよ。

**小野** ええ、その時だけ。二年間だけみたいですよ。六・三・三・四制になる前に。後の人たちは六年だから、女学校から高校まで行ったみたいで。私四年生でやめようと思つて謝恩会に張り切つたら、父親が卒業式に来たとき、佐々木さん伊豫さん五年生に入れませんか、って言われて、はい家に置いてみましょうがないからじゃあお願いしますというので、卒業証書を返したもんですから、職員室に行くって「佐々木もう一回やってみろ」なんて言われましてね。四〇人だけでした、五年生って。

**高橋** あの当時東京だの、普通に五年生の女学校が多かった。

**司会** ええ、普通は五年生ですね。中学校も五年生まででしたかね。

**小野** その時の一年間は本当に女学生らしい生活したので、そのクラスメートは結束がすごくいいんです。いまま同級会やってます。

**高橋** 私たちも、つながりがいいですよ。ところが一級上の学年は、あんまりそういうの聞かない。二、三年前後してもね、仲のいい人は集まるようですね。学年によって波があるみたいですね。

**浅倉** 私も二級下で、あそこの学年は比較的揃つてなんでも活躍した年で、あこがれを持ってましたね。やっぱり波がありますかね。

**司会** 比較するから、波みたいに感じるのですかね。

**城** 私たち入学試験の時に、学力試験っていうのが無かつたんですよ。二、三人の先生方と対面して口頭質問と、それから走るんですよ。校庭を斜めに、何メートル位あつたかしら、体力検定みたいに。一〇人ぐらい一挙にね。

**浅倉** ありました。そういうのありましたね。

**司会** 口頭質問の中は覚えておられますか。

**小野** はい。私から言っていていいですか。届け出すのが早かつたので、受験番号一番だったんです。教頭先生になられた菅野先生のところに行つて、今朝起きたときどういふこと感じましたか、と聞かれたので、はい三月中にある祝日か祭日のこと聞かれると思ひました、と言つたら、じゃ隣の部屋へ行つたらちゃんと気をつけてみなさい、と言われたら本当に聞かれたんですよ。(笑い)入つてから、菅野先生に確か佐々木伊豫さん一番だった、ちよつとおもしろい子だと思つたと言われたんですよ。本当に思つてたこと言つたと思つてたんですけど、そう言われました。そういうのとか、大東亜共栄圏に入っている国々の名前を挙げなさい、とかそういうのだったんですよ。

**城** 走る時に、途中で走れなくなつてしまつた方が落ちたんだとか言つてましたね。

**司会** 体力が無くて落ちたことは無かつたでしょうねえ。でも、学科試験は無かつたんですよ。



小野 伊豫 さん  
(昭和22年卒)

**小野** できる人が落ちたりすると、きつとあの人は口頭質問の時感じ悪かつたんだなんて適当にうわさしてましたけど。

**高橋** 私、入学試験があつたかどうか全然記憶無いですよ。皆入つたような気がして。

**浅倉** 試験は無かつたけれど、やっぱり口頭質問はありましたよ。でも簡単なものでね。家族のこととかですよ。

**司会** 入学試験に筆記試験が無かつた。学力試験が無かつたんですね。

**城** 特殊な戦争中という状況でしたからね。

**高橋** 昔は女学校に入る人は極少数でした。娘は裁縫習えば十分で、下手に学問習うと屁理屈言うからつて言う人もいたんですよ。在り方からいっしやる方もね、よほど親が教育熱心な方でないとい入らない人もいます。各村から二人ぐらい来ていて、時々会うんですけどね、やっぱり親が理解がある子どもさんですね。昔はそうでした。

**浅倉** そういう時代だったかもしれないですよ。



朝倉牧子さん  
(昭和16年卒)

選ばれた人とか、いいお家とか、教育的な理解があるとか……。

**高橋** もちろん財産があるお家でしょうけれどもね。余裕があるお家とか。

**司会** 女学校は大町ですか。

**浅倉** 吉小路でした。新小路のところに清明女学校というのがあって、お裁縫が主で、地方からの入学者が多い学校でした。

**司会** 水沢幼稚園のこっちにあったのは？

**浅倉** あれは吉祥学園。あれは女学校ではなく私立のお裁縫学校よ。たいいていの胆沢地方は、高女か清明に行くか。清明出て先生する人たちが大分ございました。

**司会** 高等小学校というのがあったんではないですか。小学校出て、中学校行かないでというのが。

**高橋** 二年入りましたね。

**司会** あれは男女でですか。

**城** はい、男女です。

**小野** 女学校や旧制中学校へ行かない人は、高等科まで絶対行かなきゃいけなかった。

**司会** はあ、それは前もそうですか。

**小野** だと思います。明治のころは違ったと言っていましたけど。

**司会** 高橋さんの頃もそうでした？女学校・中学校行かなければ高等科二年に必ず？

**高橋** はい。そうだと思います。ただ、よほど経済的に困った家の子どもさんは奉公に出たようでしたよ。だけどよほど貧しい家でないとは。

(編集者注・女学校校歌(五五ページ)を併せてご覧下さい。)

**浅倉** 私はこういう話題になると、女学校「校歌」を思い出さすのです。

百年も前、此の当時初の女子教育の学校創立に夢と希望をかけた草創期の関係者達の如何に熱いものであったかと、校歌からよみとっていきたいものです。

一「旭日の国の東北 北緯三九度八分…略」  
二「経と緯とより世の位置の…略」

一番と二番に世界に三つの緯度観測を詠みあげているのです。三番で漸く当時はどこにもみられる「雲井はるかかの駒が嶽」郷土の風土が出てきています。

女学校時代に誰もがどうしてこの歌、歌わねばならないの等と思いつつ気軽に歌っていたものでした。

今此の座談会で話し合っているうちに土井晩翠先生の作詩として誇り高く胸を張って歌わねばと考える様になりましたね。話は長くなりますがもう一つお話させて下さい。

土井晩翠の出身校仙台の立町小学校の空き教室を活用して、全国に広がる晩翠作詩の校歌をあつめて記念展示室が出来ました。五、六年前でしたかね。岩手女子師範の校歌も晩翠の詩に山田耕稼作曲でしたので展示しました。私も友達と見学、記念校歌発表会にも参加してきました。九州からも六人応援旗を持って歌っていました。

**小野** 昭和一九年に行ったのは、伊藤製粉所に行った時じゃないですか。

**司会** ジーゼル自動車鶴見工場に第四学年動員生徒隊出発というのがあり、その後の人たちが、東京航空計器KK工場に行ったんですね。

**小野** はい。川崎とか聞いております。

**城** ホントにあのとき東京の方でお花見をして、帰ってきたあたりがね、こっちの方で桜の花が咲いてたりしてね。

**司会** 昭和一〇年のあたりだとすると、支那事変が始まった時も、生徒さんな訳ですか。

**高橋** 一二年だからね、支那事変ですよ。

**高橋** ですからね、私たちの女学校時代はね、一週間に何回かね、武運長久つてね校旗掲げて駒形神社に行って、婦人会の方々もおいでになってね、そんな行事がしょっちゅうあったんですよ。

**小野** あのころ、戦勝国だから勢いも強かった。高橋 あと、どこ陥落、どこ陥落って、提灯行列でね、これが夜でもね。よく聞くと、本当

私達女学校にも「三九度八分」全国でも珍しい数字の入った詩としても是非展示とお話致しましたが、作曲者が不明というお話でそのままになっていることは惜しいと思っております。

**小野** 北緯三九度八分というのを、校歌で分かって、ほおと思っただんですけれども。

**城** それが誇りだったんですよ。

**浅倉** だから、作曲者が分からなくても、そこに飾っていただけなんだったらいいなあと思って、私の友達がその出身でおりまして、声をかけられました。作曲者は分からないですが、変わった詞として残しておきたいなあと思っただんです。

### 戦時下の暗雲

**司会** 昭和一八年の二月に卒業生第一回女子挺身隊出発という記録があるのですが。

**小野** 一級上の人たちが行ったんです。

**司会** この人たちは、埼玉県かどこかへ行ったんですよ。

**城** 私たちは、比較的危ない目に遭わないできたんですけど、その上級生の方々は本当に大変で。

**司会** 卒業してから、皆さん挺身隊に行ってるんですよ。

**城** そうだと思います。

**司会** 勤労報国隊というのはなんですかね。昭和一九年に学徒動員ですかね。

**司会** 女の人たちも、カーキ色の服と帽子なんですか？

**小野** ええ、作業服みたいにして。そのカーキ色のは東京航空計器のだね。で、中島は紺色に化繊みたいなペラペラした上下だった。

**司会** その頃、卒業生の方々はどうされてたんですよ。

**浅倉** もう女子師範に入りまして、小国民の教育と言うことで、そういう危ない所へは行かせないで、勤労奉仕がありましたけど。

**司会** 盛岡のどこですか。

**高橋** 今の内丸の県庁の向かいの一角でした。

**小野** 城さんたちの時は違ったの？

**城** 同じですね。だけど、三年生の夏休みの時に火事がありました。

**高橋** どことが火事になったの？

**城** 師範学校が、火事になったんです。夏休みで帰っているうちにね。

**高橋** 階段教室がある方の建物？

**城** 階段教室の方は焼けなかったんですけど。附属幼稚園の方から火がきて、こっちの本校舎の方は比較的よかったです。寄宿舎も焼けませんでした。それから、男子の、上田の学校に通ったんです。あそこまで歩いて通いました。

**小野** 共学になったったんですか？

**城** ならなかった。

**高橋** でも、全寮制でしたものね。

**城** そうでした。

**高橋** お家が学校のそばにあっても入らなければ。



高橋 貞子 さん  
(昭和14年卒)

先生と学校生活の思い出

ばならなかったんですものね。

**城** 二キロの砂袋だかなんだかしょって、前沢まで徒歩でね、競歩の訓練か何かをしました。

**司会** それは女学校の時？

**城** ええ、二年生頃でしたね。全校一斉でね、順番も全校で通しの順番がついて。前沢の小学校の下あたりまで行きました。

**司会** 前沢は一〇キロぐらいはありますね。往復で？

**小野** ええ、本当に大変でしたよね。追い越されてね、田村先生に叱られたことばかり覚えてます。「佐々木、途中で遊んできたんでないか」などとね。

**高橋** 田村先生、その頃もおいでだったんですか？

**小野** ええ。姉が運動神経抜群だったから、余計私いじめられました（笑い）本当に運動神経なかったもんですから「本当に佐々木和歌の妹だか」なんてね。いつも叱られてばかりいたような気がします。

**城** あともう一つは、若柳の向こうの方から冬に使うストーブの薪、長いのを一本位ずつ背負って帰ってきました。

**高橋** 石炭でなく？

**城** ええ、薪ストーブでした。

**司会** 昔は鋳物でしたか？

**城** 教室のは、覚えてないですね。  
**司会** 石炭を焚くのは、郡部でしたね。  
**浅倉** 私たちも一〇キロ競歩は師範の頃あったからね、体力的なものは狙ったんですね。

**城** 六原へは…。

**浅倉** ありました。

**城** 私たちはなくて、前の人たちでストップになって残念がって。

**司会** 六原道場ですか？

**高橋** 女の班長さん厳しくてね。何日くらいだったかしら。

**司会** やっぱ行ったんですか。

**浅倉** 赤鳥居のあたりまで…。

**高橋** 毎朝、六原の駅まで駆け足。六原道場に泊まって、訓練を受けて、祝詞をあげてね。

**司会** 何日くらい泊まったんです？

**高橋** そんなに長くない。一週間くらいだったでしょうか。

**小野** 私たち行けなくて、残念だった記憶がありますね。上の学年まで行ったので。戦争が激しくなったから、もうできないって言って。司会 六原農場ではなくて、道場ですか？

**高橋** ええ、道場です。

**司会** 六原では、農業なんかをやったんですか？

**高橋** はい、それがひどい雨の降る中ピロピロの合羽を着せられましてね、そして縄のベルトですよ。縄の。そしてね、大根を煮て食べさせられたの。

**司会** でも、あそこは昔から農業関係の所でし

たからね。

**城** そして青年師範なんかができたんですよね。

**高橋** 青年師範、ありましたね。

**司会** そして今は、農業短大。

さつき小野さんが、よく叱られたのを覚えているという話をされましたが、よく覚えている先生というのは、どんな先生がいますか。

**小野** 国語の先生で、動員に行ったとき統導して行った菊池誠之先生。私たちにとって神様みたいだった。クラス会で集まると、その話になります。

**司会** どんな風に神様みたいだったんですか。

**小野** 師範終わって、検定で中等学校の先生になった方なんですけど、国語はすごく深いんですけど、そのほかのことは全然で、たとえは奉安殿の前に二列縦隊で二年甲組並びなさいと言くと、どういう風に並びせていいかわからないんです。井筒呉服屋の昌子さんも甲組だったんですけど、「井筒昌子、なんじよに並びせればいいのだ？」などと、国語以外は全然だめで（笑い）。でも、古典でも、文法でも、すごく詳しい。中国の古典の翻訳をして、日報で紹介されたりして。もう、とっくにお亡くなりになりましたけれども。その先生が統導して動員に行ったんですけど、口べたな先生が教育委員会と交渉したりして、どんなに苦勞して私たち連れて帰ってきたんだろうと、今も言ってます。それなのにいつの間にかいなくなってしまっ…。

**城** あの頃、終戦後の教育界はちよつとゴタゴタがありましたしね。お別れの会も何もしないでね。

**司会** 城さんもやっぱり同じように教えられたんですか？

**小野** 四年生卒業するとき、もういらっしやらなかったね。

**城** そうですね。

**小野** いつ辞められたのかわからないんです。今でも憤慨してるとんですけど。

**高橋** 私の頃は小笠原先生が、とってもいい先生でしたけれども。

**司会** 高橋さんの頃は、小笠原先生ですか。何の先生ですか。

**高橋** 祝詞を上げる先生で、國學院出かな。とてもいい先生でした。お人柄もいいし、教え方も上手だった。優しくしてね。

**司会** 科目は何だったんですか。

**高橋** 国語です。

**浅倉** 國學院出の先生が多かった。小笠原先生

に弓道習いました。

**司会** 浅倉さんは小笠原先生のどんなことを一番覚えておられますか。

**浅倉** 小笠原先生には、弓道を習いました。その時ちよつと戦時中でね、友達がちよつと男子生徒と脇道に逸れたとか何とかという、そんな話があったとき、代表が呼ばれてね、こういう時代はこうしなくちゃならないと、厳しくね、先生の顔見ると先生も自分を律しているような言い方でね、ああ先生ってこういうことしなくちゃならないんだなと思っ…、己を正さなければ、というそういうことを言っ…、その友達を直すようにということ、リーダーを呼んでしゃべったことを覚えてます。あと田村の鬼、バスケットの鬼と言われた、あの厳しさの中に、ブルマーはいて、はい、はい、とパスしてるのを、私たち一年生が見ていて、わあ厳しいなあと思っ…、その厳しさを教えているのを見てね、その気魄の鋭さに、はあ女学校ってこんな所かなあと、まあそういうことも覚えてます。

**城** 私が入ったときは小学校と違う雰囲気、

やっぱり女学校だなあと感じました。私たちの時は、英語の佐藤のぶ子先生っていらしたんですけどね、途中から軍属で南の方に行かなきゃならないというので、二年生の途中からいらっしやらなくなりました。

**小野** あのととき家庭科なんか教えてましたね。英語はもう廃止になって、二年生なって、英語全然なかったね。敵国語というので。だか

ら、家庭かなんかで、舎監もしてたつた方ですよね。

**城** 舎監もなさってたつたねえ。その後卒業してからは長くクラス会でね、のぶ子先生をお呼びして。

**浅倉** しかし、こうしてみても時局の方針って言いますか、それに従って私たちがなされて、「ほしがりません勝つまでは」などと言われてみたり、教育界も長い間国の方針に乗ったように教育しなければならなかったんです。だから、こういう行事を入れるとか、こういう服装しろとか、私たちと四年違うだけでも…。

**高橋** 私たちのころは、それほど戦争の匂いがかつたんですけれども。日支事変とかニュースにはなつたけれども。やっぱりね、あの頃は女子教育でね、女は女らしく。で、あのお作法室があつた。覚えてますか。

**浅倉** はい、端っこにあつたのを覚えてますよ。

**司会** お作法の時間というのがありましたものね。東の方ですか。小学校にくつついてる所ね。

**高橋** 最初みんな座れなくてね、一時間のお作法の時間ではみんなびくびくびくびくしてね（笑い）夏休みになるころになるとみんな座れるようになって。

**司会** 最初座れなかったって、正座できないってこと？

**高橋** 正座ができなかった。（笑い）

**浅倉** お座布団上げるとか、お稽古です。畳の

部屋に入るってだけで気持ちがいいね。

**司会** 襖の開け閉めとかですね。

**高橋** もちろん、お茶を出すとかさせられて、座れなくてね、みんなしびれを切らして。

**司会** 昔のひとたちだったからね、できそうな気がしますがね。

**高橋** こどもですからね、そんなお行儀よく暮らしてはわけじゃないから。

**司会** なんかないか自分はやったよ。あんな気がするけどな。

**浅倉** お裁縫も相当までやらせられましたね。綿入れの丹前も作りましたよ。

**小野** 英語はなくなっても裁縫だけはありましたね。

**浅倉** やっぱり時代ですね。

**高橋** 女は女らしくってね。道のこちら側を男学校の生徒が歩くと、女子校の生徒はみんな反対側を歩くんです。お話しするなんて言うのと、不良だつて言うんですよ。

**浅倉** そうそう。

**高橋** 本当に今の生徒たち自由でしょ。当時はそんなのは全然なかったんですよ。道路歩くにもね、たとえば向こうから商業の人来ると、反対側に行つて。

**司会** そういえば、女学校と商業はすぐそばだから困りますよね。道も狭いですからね。

**浅倉** (弓道部で、商業の敷地に) わざと矢を飛ばしてね。拾いに行つてこいなんてね。

**小野** そういえば、割烹室の両側が寄宿舎だった。寄宿生は三〇人ぐらいですね。一部屋五

人ぐらいで。六つ部屋あったかなあ。

**浅倉** 私もその寄宿舎にね、あこがれの先輩のいる所に行きたいなあと思つていたつたけれども、何かの機会に友達と行くことができたんですよ。その時に、黒石とかね、衣川とかの遠くからいらしての方が、ここに娘を置いてこれだけの準備をして学校に通わせてるつていう当時の親の気持ちをしみじみ感じたのを覚えてます。本当に、子女の教育に、女学校に入れようという、村を代表して、誇りという感じで送つてる親の気持ちは、私は本当に、寄宿舎を見てね、私たちこうやってうちから通つてるのに、一週間帰られないで気の毒になつて思つて眺めたんですよ。

**小野** 一〇キロあるの、毎週帰りましたものね。歩いて。

**高橋** どちらだったんですか？

**小野** 白山です。姉たちもみんな寄宿舎で、私で四人入つたんですけど、一番上の姉が九十九で寄宿舎の一回生かな。

**高橋** 小野寺さんつて言うお裁縫の先生はいらっしゃつたんですか？

**小野** いいえ。

**高橋** もう辞めてしまつて？

**小野** ええ、千田ヨシエ先生。ヨシエ先生は水高でも家庭科の先生をなさつた。最近亡くなつたんです。

**司会** ええ、去年か一昨年ですね。あだ名が「南都田のお姫様」。

**小野** (笑い) 私たちがつけたのよ。

だから、本だけはいっぱい読んだ。

**城** 私、国語辞典なくて、菊池先生に「ああ、いいねえ先生、その国語辞典」なんていつたら、「もう一冊来てから、やるか」つて言われて。

**小野** 城さんめんこだったから。(笑い)

**高橋** あなた方(小野・城)、バザーなんてあつた？

**小野** なかつたです。

**高橋** あれは楽しかった。ここではあつてね、みんな分かれてめいめいに何か作つてね、カレー作つたりね、食堂部の人は食堂作つて、作つて出しますでしょ。そうすると、ま、いい加減なお値段つけて、せっかく作つたからね、売りたいくないんですよ。

**司会** 浅倉さんの時はないんですか？

**浅倉** あんまり記憶にないです。忘れたかもしません。

**高橋** そしてね、食堂ではカレーライス、ハヤシライス。食堂は忘れない(笑い)

**司会** 食堂は校舎のどこにあつたんですか。

**浅倉** 割烹室、体育館に行く所にあつたんです。

**高橋** 運動会も楽しかった。ダンスがあつたら。

**司会** ダンスがあつたの？

**高橋** 知らないでしょ。全校でのダンスがあつたの。スカートでね、田村先生とか男でも。

**小野** 私の姉も言つてました。父兄でもないおばちゃんたちも全部来て、来賓席にいてリレーなんかで姉が一等とると、いっぱいお小

**高橋** 在の方から女学校はいるだけでも大変なのに、上の学校に、帝国女専だったかしら、行くつていうのは相当大変なのよ。

**司会** 女学校時代の印象に残つた先生は、国語の菊池先生ですか。

**小野** 統導者でしたしね、動員に行つたときの。なんか命の恩人みたいな気がして。

**司会** その籠球の先生は数学つていいましたか。

**浅倉** 田村先生。体育です。

**司会** 記憶に残つていてる教科は何ですか。

**高橋** やっぱり体育ですよ。しばれる日に体操に出なきゃならないと、みんな雪のある所で、いわゆる今のサッカーですよ、フットボール。校庭中走り回つて、ぼかぼかになってやつとコートに入つて体操する。あれがとってもよかつたですね。

**司会** 教科の勉強つていっても、こちら(小野・城)は動員だったんですものね。

**小野** 一年生の時と五年生の時、ちよこつと勉強した。

**城** なんか、本屋さんに行つてみても、参考になる本が見つからないという感じだね、公民館の向かいに関沢さんつて古本屋さんがあつて、その辺を見て歩いて見たりもしました。兄弟もなかつたので、どんな本を読めばいいのかわかりませんでしたね。

**司会** 亀梨さんへは？

**城** 亀梨さんには行つてみませんでしたね。  
**小野** 本は、父親も好きだったから、明治・大正文学全集なんつてのが、父の書齋にあつ

遣いもらつたつて。だから、運動会はうんと楽しいつて。

**司会** ダンスはどんなダンスだったんですか？

**曲は？**

**高橋** いわゆるみんなで踊るフォークダンスじゃないの。

**浅倉** ドナウ川のさざ波とか…。

**高橋** なんか優雅なダンスですよ。ワルツとかレベル高いんですよ。

**浅倉** ドナウ川は昔からの曲だからね。

**高橋** ちよつと戦争の匂いがあるけれども、優雅な時代ですよ。籠球ではしごかれました。けれどもね。もう少し勉強でしごいてくれればよかつたけれども(笑い)

**浅倉** あんまり悲壮感はなかつたわね。こんなもんだと思つていました。

**城** でもやっぱり東京行くときに、今考えると常磐線周りで、途中止まつて窓を閉められてね、周りの様子を見させられない。東京駅近くになつて、もう一回止められてね。

**司会** それはいつですか？

**小野** 昭和二〇年二月二六日ですね。

**司会** やはり皆さんの学校時代は戦争の影がつきまとうわけですね。今日は私も知らない当時の様子をたくさん伺うことができてとても有意義でした。大変ありがとうございました。

# 座談会Ⅱ

## 昭和から平成

日時 平成三二年七月四日(日) 一〇時  
会場 本校応接室

司会 安彦公一氏(水高第二六回生・胆江日々新聞社編集長)

参加者 千葉正和氏(水高第三九回生)

越田聡子氏(水高第三九回生)

佐藤清亮氏(水高第四〇回生)

吉田敬氏(水高第四三回生)

嵯峨和子氏(水高第四四回生)

及川美佳氏(水高第四四回生)

京野淳氏(水高第四四回生)

司会 今日、昭和から平成にかけての頃のお話を皆さんからお伺いいたします。どうぞよろしくお願いします。

とここで皆さんがおいでの頃は胆沢病院は、まだ現在の場所にはできていないんですね。この辺ですと、ジョイスはどうですかね。

京野 ジョイスもなかったですね。

司会 そうですか。では相当変わってしまったているんですね。

司会 ところで皆さんの通学方法は？

嵯峨 徒歩です。すぐ近くだったものから。司会 自転車とかはどうだったんでしょうか。

私の頃は二km以上と決まっていたと思います。バイクは？

京野 バイクは一〇km以上じゃないとだめということだったと思います。

千葉 私は江刺だった関係で下宿でしたね。学校のグラウンドのすぐ近くで、何人かがやはり下宿していた記憶があります。

司会 クラブは何だったんですか。

千葉 文化部ですね。映画部です。

司会 ああ、私の後輩だ。

千葉 今もあるんですかね。今はもう無いんですか。そうですね、残念ですね。

### 時代について

#### 昭和から平成へ、高校時代に印象にあったこと

佐藤 私は昭和六三年三月に卒業しまして、私が水高を受験の時に、三月に新幹線の上野開

通のニュースがありましたね。それまで大宮止まりだったんですね。あと、一年生の時にメイプルが開店しました。

司会 地方の発展の時期だったんですね。

佐藤 そうですね。近くにはマルサンデパートがあったりしましたね。

千葉 革マル派の事件があった頃で、修学旅行に行ったときそれに関わる事件があったらしくて、ヘルメットをかぶった人が東京駅にいましたね。その関係で旅行ルートを変えられたりした記憶がありますね。

司会 修学旅行は京都だったんですか。

千葉 そうです。あとはスペースシャトルのチャレンジジャー号の爆発事故があったと記憶しています。

吉田 私は昭和六三年四月に入学して、平成三年三月に卒業しました。昭和に入学して平成に卒業したということ、二つの元号にまたがって高校生活を送ったというのも考えて見ると珍しいことだと感じます。その頃はバブル経済期なので、高校三年間を通して勢いのある時期だったと思います。

司会 大喪の礼で、商店街も一斉に営業自粛だったか、テレビも突然に二、三日間娯楽番組を放送しなくなったことがありましたよね。

吉田 そうでしたよね。天皇陛下がお亡くなりになって二日間は完全に追悼番組だけで、その後も自粛ムードの番組だったと記憶しています。大喪の礼の日はたしか学校は休みだったと思います。



佐藤清亮さん  
(昭和63年卒)

及川 私たちが修学旅行の時は天皇陛下の即位の礼のときで、京都駅構内を皇族の方々がお通りになるので旗を振って下さいということで、みんなで日の丸の旗を振ったことがありました。あとは湾岸戦争が始まったというニュースを聞いて驚いた記憶があります。

司会 嵯峨さんはどうでしたか。  
嵯峨 水高時代は大学受験のウエイトが大きかったと思います。この点で言いますと、昭和と平成との違いは、共通一次試験からセンター試験に変わったというのが大きいと思います。

越田 確かに私もメイプル開店のことで騒いでいたり、京都駅で旗を振ったような気がしますが。あとは、共通一次試験の一〇〇〇点満点からセンター試験の八〇〇点満点に変わった頃に受験でした。

京野 私は平成元年の入学なので、平成のイメージが強いですね。バブリーな時代なので、自由度がずいぶん大きい時代だったよう



に思います。経済的な面でも選択の幅が大きかった気がします。

### 志學館の学習・受験について

**司会** 皆さんが卒業されて二〇年を顧みると、時代が大きく変わってきた時期ということはあるのではないと言えますね。社会的に見ると、昭和から平成へという時代に皆さんは高校生を送られたわけですが、水高はちょうどその時に八〇周年を迎えて志學館ができたんですね。志學館というのは私は全く知らないのですが、皆さんはどのような関わりをお持ちでしたか。

**佐藤・千葉** 志學館ができる以前はちょっとしたグラウンドで、野球なんかして遊んだんですよ。

**司会** 遊ぶスペースだったんですか。志學館が建つというのは知らなかったんですか。志學館はいつ利用が始まったのですか。



吉田 敬 さん  
(平成3年卒)

いましたが、先生の目線からすると大学に何人入ったかが重要だったようです。私たちの学年はとも大学受験の成績が良くて、一大金字塔を建てたとも言われたんですけれども、反面今で言う不登校になる人たちも何人もいて、光と影があったと感じています。

### 学校行事の思い出

—— クラスマッチ・予餞会・運動会・文化祭  
応援歌練習・修学旅行 ——

**司会** クラスマッチ **§** 学校生活の中で、クラス分けによる影響は何かありましたか。

**佐藤** 行事としてクラスマッチがありました。自由な校風があって二、三年は自由に運動着を着てたりしてましたね。確かクラスマッチは三、四日間続いていたので、一年生などは最初に負けてしまうので、あとは特別何もなくて点呼の時まで抜け出したりして（笑い）。

**千葉** やはりクラスマッチは受験前最後の大きなイベントなので三年生は張り切ってやりましたね。佐藤さんの話ではないけれども、中学から進学したてのときの自由度の違いはかなり強く感じましたね。他校の実情はよくわからないんですけども、他校生の話から類推すると水高は自由なんだと思った記憶があります。

**司会** そうですよ。自由でしたよね。ただ一

**吉田** たしか、私が三年生の時に完成して、その年の夏季講習や模擬試験の会場として使いました。それまでは、農協の会館を使って春季講習などを行っていたんですよ。

**司会** 冷暖房完備で、そんな贅沢なことはやめろって言ったんだけど。（笑い）

**京野** 当時は冷房があるというので、何でもかんでもそこでやってたんですね。

**嵯峨** 夏休みは自習にも解放していたと思います。

**司会** 図書館などでは勉強しなかったんですか。

**京野** 志學館には先生もいて質問もできたんですよ。図書館でだと、先生のところまで行かなければならなかったものから。

**司会** そうすると、主に志學館で勉強していたわけですか。

**京野** そう言われると、そこまで勉強しなかったんですけど。（笑い）

**嵯峨** 志學館とは話がずれますが、勉強合宿というのがありました。場所は忘れちゃいけないけど、山の涼しいところで一〇日間位、缶詰状態で勉強させられたんです。その勉強合宿に入らない人や、合宿を終えた人たちが、その志學館に行つて勉強するという使い方でしたね。

**司会** 他の皆さんの頃は勉強合宿というのはあったんですか。

**千葉** ありましたね。私の頃は衣川山荘だったかな。

**司会** 私が高校の頃は体育館の横に記念館とい

方で、勉強ができないと相当蔑まれる学校ではあるなという気はしましたね。

**吉田** 中学とは確かにギャップを感じましたけれども、水高で実際に毎日過ごしているとそれが当たり前であると感じるようになりましたね。

**及川** クラスマッチだと騒ぐ割には事前の練習もしないで、いつも一発勝負でポロポロに負けていました。私は中学校のときにやっていたのでソフトボールに出たのですが、サインの交換があるわけでもなく、声を掛け合うでもなく、ひどい結果でしたよ。

**京野** でも、クラスマッチで勝ち上がっていくと競技が合つてしまつて、片方に出られなくなつてしまうこともありましたよね。

**嵯峨** クラスで何か取り組んだというので覚えているのは、私はクラスマッチよりも予餞会の方ですね。一年はコメディイで、二年はシリアスな劇を各クラスで準備してやることになっていました。

**司会** ああ、一年生の発想というのはなぜかバラエティーショウみたいなのが多くて、でもあまり受けない（笑い）というのがわかって、二年生になると何かシリアスなものを企画するようになるんじゃないですかね。その賞というか、評価はどうなっていたのでしょうかね。

**嵯峨** たしか三年生には紙が配られて、それに点数を書いていたと思いました。

うのがあります。入学してすぐにその記念館で三泊四日位の合宿があったんですけども、皆さんは合宿しましたか。

**及川・嵯峨** いえ、無かったと思います。

**司会** 私はその合宿の時、みんな勉強するんだって驚いて、何しろほとんど勉強したことがなかったものだから。カルチャーショックでしたよ。（笑い）それで、勉強合宿というのは、どういうことをするのですか。

**吉田** それぞれの自学自習で、特に授業形式をとって何かをやるというのではなかったです。朝昼晩の食事時間はありますが、それ以外は各自が各自のやり方で勉強するという形式でした。周りがやっているので、それが結構プレッシャーで、みんなやっているので怖くなくなりました。

**嵯峨** みんな合宿中は一生懸命勉強しているんですけども、五日ぐらい経つとみんなの気が緩んできてきて、そうするとあの怖い臺先生が喝を入れに来たのを覚えています。進路課の先生で国語の先生なんですけど。

**司会** その先生のことば皆さん知っているわけですね。

**嵯峨** ええ、いつも棒みたいなのを持っていて、びびりとやられました。

**司会** 受験体制の学校だからいろいろなプレッシャーがあるのは仕方ないけれども、そういうのに対して反発したり受け入れたりして過ごしたと思いますが、実際はどうでしたか。

**嵯峨** 生徒として私自身も勉強を大事に考えて



及川 美佳 さん  
(平成4年卒)

**吉田** やるので精一杯で、採点のことまで覚えていないですね。（笑い）

**佐藤** 三年生から（賞品の）参考書かなにかをもらったように記憶していますが。

**司会** 私たちはころは、（三年生の）最前列の人たちが（評価の）看板を下から持ち上げてみんなに見えるようにしていたものだよ。ラブシーンなんかがあると「映倫カット」なんて挙げてね（爆笑）。ところで、嵯峨さんの時は何をしたんですか。

**嵯峨** 私のクラスではロミオとジュリエットとウエストサイドストーリーのダイジェストをまぜこぜにしたような台本をクラスの誰かが書いてやったんですけどね、ちょっと抱きつくだけでキヤーとか盛り上がりませんでしたよ。私は、それで主演女優賞をもらいましたよ。（一同賞賛）

**司会** 準備などはどうしたんですか。

**佐藤** 結構練習したね。台本書いたり、道具類を作る人もいたり、一年生の時の記憶ではそ

うですね。

**京野** やはり教室の中で練習してましたよね。

**越田** あまり記憶がないですね。

**京野** 一年生の時しか覚えていない。

**及川** 一年生の時は文系・理系の別がないし、私のクラスは芸術選択も入り乱れた学級なのでけっこうユニークな人たちがいましたよね。

§ 運動会 §

**司会** 運動会ではどうでしたか。

**京野** 陣地の脇にシンボルを作りましたよね。

毎年違うのを作るんですが、スノーマンやムーミン、レオなどのマスコットキャラクターをかたどって作ったと記憶しています。

**司会** 美術部などが大きな絵を描いていましたよね。

**京野** ええ、それは陣地のバック絵で、そのバック絵とは別に陣地脇に大きくマスコットを作っていたんですね。

**司会** 私たちの頃は、応援のためにトロイの木馬を作るというのをやりましたが、それ以外



越田 聡子 さん  
(昭和62年卒)

には大きいものを作ることはなかったですよ。

それに、グラウンドの土手にバック絵を取り付けるあの鉄製の型枠もなかったので、毎年やぐらを組んであのバック絵を掲示していたんですよ。絵の題材はナポレオンの図とか、革命の頃の絵だとか、歴史上の出来事から題材をとって描いていたようでしたよ。

**佐藤** シンボルは確かに覚えてますね。それに使う新聞丸めをやりまして、徹夜ですね。起きろ、なんて言われながらね。

**司会** 作り方はあったんですか。

**京野** ええ、鉄骨に金網を袋状に張って、その中に丸めた新聞を入れていくんですね。たくさん作らなくてはならないので、その新聞を丸めるのが大変でした。

**千葉** 昔、文化部長屋というのがありまして、その文化部長屋の一室をその新聞丸め専用の部屋にして、そこに貯め込むんですね。そうするうちに部屋が新聞で埋もれるんですね。で、その中に潜り込んだりしましてね。暖かいいもんだから。

**司会** 皆さんも新聞丸めをなさったんですか。

**越田** 私は新聞丸めをやりましたね。

**司会** ところで運動会の応援練習というのはどうしたんですか。時代時代でだいぶ違いがあるように感じるんですけども。

**佐藤** 私は応援団だったんですけども、運動会の応援練習については先輩からの指導はなかったんですね。だから、前の年のイメージで自分たちで工夫して組み立てていくんですね。

ね。そのために毎年少しずつ変わっていつてしまうんですよ。

**司会** 運動会のためだけの応援団というものもあるんですね。

**佐藤** ええ、ありましたね。女子もいて、補助リーダーでやりました。

**嵯峨** 応援歌も三つか四つありましたよね。確か慶応と早稲田の替え歌だったと思いますけれども。あと、私たちの頃は三年生から指導されて、紅軍は飛んでったバナナ、白軍は鬼のパンツかなにかを踊るといったのがありました。

**司会** 競技と競技の間に応援合戦をやったと思うんですが、その中でたとえばクラス毎にドラマ仕立てのような出し物などはなかったですか。

**千葉** 運動会の応援団を組織しているの中で自分たちで衣装を作ったりなどしてアクションを行うというのはありました。

**吉田** 記憶があやふやですが、クラスでの出し物もあったような気がします。

**嵯峨** たしか二年生がクラスでアクションを企画するというのだったはずですよ。何かを踊った記憶があります。

**佐藤** 私は三年間棒倒しに出ていたので、他のものにはあまり関わらなかったんですね。棒倒しのメンバーは基本的にそれだけなので、周りでどういう動きになっているかがあまりわからないんですね。

**司会** 運動会というのは、結構楽しいものでし

たよね。準備も含めて。

**千葉** そういえば、運動会の頃は家に帰らなかったんですね。あの文化部長屋の新聞紙にくるまって寝てね。

**佐藤** そうですね。私は金ヶ崎なものですから、大町の松ノ湯に入って学校に戻ってくる、そんな感じでしたね。

§ 文化祭 §

**司会** 大きな行事というと、他に何がありましたか。

**越田** 文化祭がありましたね。

**司会** そうでしたね。三年に一度、大きく公開したのでしたね。

**及川** 公開しない年は校内で文化部発表会というのを開いていました。

**司会** 越田さんは文化祭では何かなさったのですか。

**越田** 私は映画部だったので、制作した映画を発表しました。一つ上の先輩までは「太陽にほえろ」のシリーズを作っていたんですが、オリジナルで脚本を作って8ミリでドラマを撮ったんですね。自分たちでキャストから撮影まで全部をこなしました。

**嵯峨** 私は一年生の時に文化祭があったんですが、その時一年生だけの合唱コンクールがあったように記憶しています。

**及川** 私は、映画部ではなかったんですけども三年生の時に映画部の映画に出させてもらったんです。

**司会** 女優をなさったんですね。(笑い)

**吉田** 私は二年生の時に文化祭がありまして、二年生はクラスごとにバビリオンのものに取り組もうということだったと思います。私はその時クラス発表担当で、入って楽しめるようなものを企画しようということだったと思います。

**佐藤** 二年生が最も盛り上がるんですね。クラス企画ではお化け屋敷なんかをやったと思います。あと、そのとき黒陵の応援団がきて中庭でエール交換をした記憶がありますね。

**京野** 私は文化部でマジック研究会だったので、文化祭で手品を発表しました。当時は「マジ研」と呼ばれていましたね。

**千葉** 私の同級生で手品がすごく好きな人がいたんですが、たぶんその人が立ち上げた同好会だったと思います。そういう人のおかげでいろいろな同好会が立ち上がって、ただ、その人が卒業すると自然消滅したりするものだから、同好会はできたり消えたりが激しいんですね。

§ 応援歌練習 §

**司会** 入学して早々に応援歌練習がありますが、いい思い出からいやな思い出までいろいろあると思いますが、これにまつわる何か思い出はありますか。

**京野** 入学式の日から応援団が校門にいますので、学校に行くときにため息をついて。応援歌練習に振り回される一週間でしたよね。



京野 淳 さん  
(平成4年卒)

その期間は超早弁で、三時間目からもう弁当を食べたりしましたよね。あとは歌詞を覚えるのが大変なので、音楽部にみんな殺到して校歌や応援歌を練習したものでした。たしか、その関係で応援歌が吹き込んであるテープも出回りましたよ。みんなそれを奪い合うようにしていましたね。(笑い)昔の応援歌練習では腕上げというのがあったんですが、いまはないそうですね。

**越田** ええ、応援歌練習の期間は本当に大変な思いをして、それが終わると困難を乗り越えた同志みたいな妙な連帯が生まれたりして。(笑い)

**嵯峨** クラス担当の応援団の人が張り付いていて、ずうっと帽子を目深にかぶって顔が見えなくてすごく怖いんですけども、その一週間の最後に帽子を取った瞬間、優しい笑顔が見えて、それまでの印象と一八〇度変わってものすごくいい人に見えてしまう。(笑い)それが終わって、対面式を終えると水高生だと

いう感じが持てましたね。そこで愛校心というか、水高への帰属意識というか、そのような感情が出てきて、変なことではできないぞという気持ちも備わったと思います。

**及川** 私は入学するまで、バンカラのあの人たちは不良だと思っていました。(爆笑) 入学式の日に母とタクシーに乗って来たんですけど、私も、応援団の人たちが校門の外に立っていてこのまま校門の中に入ったらタクシーから引きずり出されるんじゃないか(爆笑)と、恐怖感があった、この学校に入学してはいなかったんじゃないかと本気で思いました。(笑い) 入学してから、あの人たちは水高生だったのかと思いました。応援歌練習のときは早弁をするように応援団が指示するので、早弁を奨励する学校なのかとも思いました。**司会** それで水高生は早弁の習慣がつくんですね。(笑い) ところで皆さんのころは帽子はどうなっていたんですか。

**吉田** 帽子はありましたよね。私はかぶって登



嵯峨和子さん  
(平成4年卒)

校してましたよ。

**佐藤** かぶりました。

**千葉** かぶりました。

**京野** 最初のうちはかぶりませんでした。

**司会** いまは応援団以外はかぶっていませんですよ。あれはズボンの汚れを拭くのになんぞよかったですね。(笑い) それでは下駄はどうだったんですか。

**千葉** リーダーだけが履いていたんですね。

**司会** 私たちの頃は、下駄を履けって言われたんですね。いまはもう帽子も下駄もないんですね。時代は変化するんですよ。

**千葉** 時代が変化すること自体は仕方ないのかなと思いますが、ちよつと寂しいですよ。ただ水高は全校で応援団なので、そこがきちんとできればいいんじゃないですかね。

**佐藤** リーダー選というのがあったんですよ。すごく長時間に渡って議論をして決めていったんですね。

**千葉** 話し合いを進めていく中で、いろいろな意見や立場のぶつかり合いがあったんですが、どうにかこうにか決めていったんです。

**司会** 一〇人の代表を決めるというので、毎年そうなんです。私たちの頃からすでにそうですね。俺は絶対に引き受けないという人もいれば、クラブが最優先だという人がいたり、クラブがちよつと弱いから引き受けてもいいかななんて人もいたりね。**佐藤** 以前はリーダーになる時はクラブを辞め

しまつて、その後先生から陰でこっぴどく叱られたことがあります。陰でべこべこ謝つて。(笑い)

**司会** ああ、先生も陰でやってくれたんだね。配慮したのかな。(笑い)

**佐藤** 腕上げの最中に女の子に倒れられて、救急車を呼んだこともありました。体育館で閉め切つてむしむししていたんでしたかね。大事に至らないで済んだのでよかったですね。私も。

**司会** 野球応援などではどうでしたか。

**越田** 私が二年生の時に決勝まで行きましたよね。

**千葉** あのとときは、明日は勝つて甲子園だ、みたいな雰囲気がありましたよ。

**司会** 第一から第四の応援歌の他に逍遙歌とか水高音頭とか皆さん歌いましたか。

**越田** みな、歌わされましたよね。**司会** リーダーは皆、全部タクトを振るんですね。

**千葉** 一応歌うのは全部ですが、実際にはそれぞれの曲で担当が決まっています、校歌の場合には団長がセンターに立つことは決まっていますが、あとの歌はその担当のリーダーが振るわけですよ。

**司会** 養成期間のしごきつていうのは結構凄

いって聞いてますが。**佐藤** ええ、先輩には本当にお世話になりました。(爆笑)

**千葉** いやいや、本当にお世話しました。(笑い)

**佐藤** でも、養成期間は本当に苦しいですね。体力的に続かない。今ではとても無理ですよ。高校時代からできたようなものです。本当にその養成期間があるから、みんなにリーダーだと認められるんだと思いますよ。

**§ 修学旅行 §**  
**司会** さて、話題をがらりと変わりますが、修学旅行は奈良・京都ですよ。日数はどのくらいでしたか。

**千葉** たしか三泊四日だったと思いますけど。**越田** そうそう三泊しました。同じうどんしか出なかった。(笑い)

**司会** 昔から妙なことに、水高は観光名所で校歌を歌っているようなんですけれども、皆さんもそうでしたか。

**佐藤** 薬師寺と比叡山で、比叡山では根本中堂の所の石段で校歌を歌いました。

**吉田** 比叡山には行きませんでしたね。でも薬師寺で歌いましたよ。**京野** 薬師寺だけではどうも代々続いているようですよ。

**及川** お坊さんのお説教をいただいて、その後でしたよね。

**司会** ああ、あそこは説法の上なお坊さんがたくさんいらつしやるからね。私たちの旅行は東北一周だったけれども、金華山で鹿に向かつて、誰もいないんだけど(笑い) 歌ったんですよ。行く先々で校歌を歌わされた、というか、歌うものだという伝統があるんですよ。

て、ということだったんですが、私たちの時からクラブは辞めない、でも応援団もやるというように変わってきていたんですよ。部活動を六時半までやつてから、その後応援団の練習という人もいましたよ。

**司会** そうするとその時から部活動との両立という形で進んできていたんですね。

**司会** 応援歌が昔からみて微妙に変わってきているという話をよく聞きますが、校歌もテンポが年によって違っていて、すごく早い年代と遅い年代があるようなんですけれども、皆さんの頃はどうかだったんでしょうね。校歌制定の頃は式典で歌うようなテンポだったようですよ。でも、だんだん遅くなって引きずるような歌い方になっていったようですよ。

**吉田** 確かに遅いテンポでしたよね。

**京野** ええ、遅くてどこまで歌ったかを忘れてね。(笑い) あと、応援歌練習の時は、リーダーがいきなり入つてきて、歌えって言われて、途中で止められるんですね。

**司会** 私たちの頃は、最初にリーダーが聞かせるって言うってね、一回歌ってくれるんですね。ただ、それがメロディーも何もない、ただ怒鳴っているだけのものですね。それで、明日までに覚えてくるように、と言われるわけですよ。

**及川** 応援団って無茶なことをさせると内心思つたものでしたよ。

**千葉** リーダーやつてる時に、教室の戸をド



千葉正和さん  
(昭和62年卒)

**嵯峨** 他には、旅行中に班ごとの自主行動の日があつて、確か四カ所を最低回らないといけないというポイントがあつて、残りは班ごとに自由に計画を立てて歩くというのがありました。

**吉田** 皆さんのお話を伺ううちにだんだん記憶が戻ってきて、ああそういういえば私たちの頃もそうだったなあと思ひ出してました。私は、実は班長を仰せつかったということは思い出しました。でも、何をやったという記憶はあまりないですね。(笑い)

**及川** そういえば、班分けをしましたね。出席番号順で五、六人ぐらいで班を作つたように思いますけど。

**京野** 宿では部屋に五、六人ぐらいずつ入りましたよね。で、舞妓さんがきて踊つたのを見んなで見ましたよね。

**司会** 奈良方面ではどうでしたか。

**京野** 奈良公園で鹿せんべいを買つて鹿に向かつて投げたとか、あとは東大寺の大仏殿で

あの柱の穴に同級生が挟まったり（笑い）とかは覚えています。

**及川** バスはクラス一台でしたね。

**佐藤** そうそう、バスの中ではカラオケ大会でしたよね。

**司会** 京都までは往復新幹線ですか。

**嵯峨** ええ、でも東北新幹線はまだ東京までつながっていませんでしたからね。

**千葉** 上野で降りて、京浜東北線か山手線に乗り換えて、東京駅に行っただけですね。

**嵯峨** そうですよ、そういえば上野駅で先生が旗を持って、今から乗るぞっていう感じで、車内アナウンスでも降りてくださいって入ったものだから、すごく田舎くさくていやだなあと思ってしまったよ。（笑い）

### 水高のこれまでとこれから

**越田** クラブの練習なんかは文化部長屋でやっていたので、すごく懐かしいですね。



安彦公一さん  
(昭和49年卒)

しています。

**嵯峨** 私は元々水沢出身ではなく、中学の時に転校してきましたね。それで中学時代はよそ者みたいでしたけれども、高校は水沢で三年間を過ごすことができて、ああ私はここにふるさとを見出したな、という気持ちを持ちました。これからの水高のあり方ということについて、今の時代はみんなで一つのことをやろうとか、帰属意識を持つというのが難しくなっている傾向が強いと感じますので、水高精神というものを持って生きてほしいと期待しています。

**越田** 私にとって水高は、青春そのものだったなと感じています。顧みると、今考えるとバカなことにも、ただただひたむきに向き合っていたんだなと思います。運動会の綱引きで負けて泣くとか、冷静になると変だなということにもなぜか懸命になっていたんだなと思います。その当時仲間とがむしやりにやった経験が、今でもその仲間と本音で語り合える基を作ったのかなと思っています。だから、何かにがむしやりに物事に向き合っていて、自身誇りとか水高時代をともに過ごした仲間への誇りとかを身につけてほしいと思います。

**京野** 私は、水高に通うのが本当に楽しかったんですね。周りにはユニークな人やしっかりとした考えを持っている人などがたくさんいて、刺激を与えたり与えられたりの中で、水高生になっていったと思います。昔話ができ

**佐藤** あそこは二四時間入れましたよね。入り方を教わりましたものね。（笑い）

**千葉** 時間になると鍵を締められたことにはなるんですけども、逆に出入り自由みたいなものでしたね。

**司会** なるほど、現在では文化部は校舎の中に部室があるようなので、そういう意味では昔より文化部の自由度は低いわけですね。（笑い）それで、自由とすることいいですか、水高では昔から、勉強を除くと管理された記憶というものがありませんが、そのあたりはどうですか。

**佐藤** たしかに、先生たちが回ってきて早く帰れなどと言われた記憶があまりないんですね。野球部なんかは九時過ぎ頃まで練習してましたよね。

**京野** そうですか、私の場合は六時頃に守衛さんが回ってきて、締めるぞって言われて追い出されたんですけども。

**司会** なるほどね、まちまちですね。（笑い）では最後の話題として、「自分にとっての水高」ということとお話をいただきます。

**佐藤** 振り返ると、在校中は無い頭を絞ってよい水高を創ろうという気持ちがあった気がします。社会人になって地元に住んでいると、水高同窓生がたくさんいらっしゃって心強い思いもしています。今後水高は百年も二百年も続いてほしいというのが今の本音ですね。

**千葉** 一七、八歳の自分が応援団選出や部活動

る今があるのもそんな水高があったからこそだと思っています。今の水高生は、自分たちの時よりずいぶんおとなしい気がします。人の右倣えで、自分から主張をしたり発信したりする生徒が少ないのではないかと感じます。人のつながりをもっと作って行って、水高同窓生として将来胸を張って生きていけるようになってほしいと思います。

**司会** 皆様の貴重な体験やご意見をいただきまして、充実した時間を過ごすことができました。今日はありがとうございました。

で泣いて過ごした場所で、下宿生でもあったという環境もあって、今までの人生の中では似たような経験をしたことがないので、本当に思い出深い所です。母校に対する期待、やはりいろいろな歴史の変遷はあったのだから、水高は水高としての存在があるのだから、今後も水高のアイデンティティーのようなものを大切にしながら、百周年を機にさらに発展し新たな水高ができていけばいいなあと期待しています。

**吉田** 水高時代には同級生たちも勉強に打ち込む者あり、部活動に熱中する者ありと面白い人たちがたくさんいました。ただ私は在学時にあまり一生懸命にすることがなかったんですね。卒業してから、思い出すたびになんでもつけないことをしたんだという気持ちにかられましたので、その失敗経験から、在校生やこれから入学してくる人たちには、やはりここでしかできないことがあると思うので、水高3年間を本当に心から楽しんで過ごしてほしいと思っています。

**及川** 水高で出会った友人がすごく多くて、今でもつきあいが続いている友達がいます。そういう面で水高に入ってよかったと思っています。水高の活躍を伝えるテレビとか新聞があると、すごく気になって見えています。高校野球などでも水高の試合の時には耳にラジオを押し当てるように聞いています。諸先輩方もそうだと思いますが、卒業しても水高に寄せる思いは大きいので、後輩に期待

座談会 昭和10年代を中心に

# 戦中期の女学生の姿

実施日 平成2年8月31日

## 参加者

- 高橋 成子 (昭和一二年三月卒)
- 高橋 敏子 (昭和一七年三月卒)
- 斉藤 ナホ子 (昭和一七年三月卒)
- 高橋 富多葉 (昭和一八年三月卒)
- 岩淵 栄美子 (昭和一九年三月卒)
- 佐藤 智子 (昭和二〇年三月卒)
- 佐々木 いく (昭和二〇年三月卒)
- 司会 佐藤 秀昭 (昭和三三年三月卒)

## 勤労報国団時代

司会 今日、私が生まれる前に卒業なさった

ということ、状況がほとんどわからないので、一応、テーマを前もってお渡ししていたと思いますが、別にこだわらなくてもかまいません。ええと、高橋成子さんを除けば、だいたい、一七、八年卒業ですね。いわゆる戦中期の時代を過ごした時期ですね。資料にもありますけれども、勤労報国団作業についてどうだったんでしょう。そのへんの話をおうかがいしたいですね。

**高橋(敏)** 水沢高女時代を大正一五年から昭和一四年までは、学校のほうで発展期として、また、一五年からは、戦中期ということとらえておりましたね。

**司会** 同じ勤労報国でも中身は違っていたんですね。そうすると一三年代で勤労奉仕された方というのは。

**高橋(敏)** 高女一六回卒の私達がそうですね。それから、一七年、一九年あたりまでの卒業の方と……。

**斉藤** 小学校の教科書がね、大正七年入学から私達昭和七年入学までで翌年変わったんですよ。私達昭和八年入学から、色刷りになったんですよ。

**司会** なるほど、一年ぐらいの間でそのへんが、違うんですね。そうすると、年表に出てくる十三年の三月に勤労報国団発会式があります

ね。

**高橋(敏)** 私達は四月に入学しておりますから、勤労報国団発会式ことは知りませんね。司会 なるほど、そうすると、一番最初に出てくるのが、六月に、勤労報国団町内清掃作業と、八月に勤労報国団作業五時半からとか、八月はほとんど作業をしますけど、どんなことをなさったんですか。

**高橋(敏)** 全校生徒で、水沢宮林署の軌道の草取りでした。なぜ、あの暑い真夏に草取りかと今思いますと、冬にストーブ用の薪を提供していただくということがあったからだと思いますね。

**斉藤** そして冬は、水沢駅付近の貯木場から大木なのを一本ずつ、背中にしよって学校まで運びましたよ。

**高橋(富)** 燃料だったんですね、薪ストーブでしたからね。

**司会** 多少、ギブアンドテイクみたいなことをやっていたんですね。岩淵さんの頃はいかがでしたか。

**岩淵** もっともつと働きましたよ。田植え、稲刈り、農村の奉仕、りんごの袋かけから、肥え担ぎ、大鐘の開墾、あらゆることをしました。

**司会** どちらかというと、食料増産的に、そうすると、一年か二年違っただけでそのくらい違っただんですね。

**高橋(富)** 昭和一六年に、世界大戦に入ってから勉強どころではなかったですね。

**司会** 二〇年に卒業した人達というのは、どうなんですか。

**佐々木** 同じですね。学徒動員がありましたね。

**佐藤** 飛行機とかの部品作り……。

**佐々木** 一九年の九月二四日に出発していますね。

**岩淵** 私は日体大在学中に、友達が卒業後に挺身隊、そして横浜方面、仙台多賀城地区で一級下の人々と共にご苦労されたことをよく聞いたものでした。

**司会** いわゆる現役の人達は動員だし、卒業した人達は挺身隊で行くという、だいたい同じ勤労動員でも、三つぐらいに状況が違うというわけですね。けっこう、いろんなエピソードがあったと思うんですが、それぞれの世代の違いですね。

**高橋(敏)** はじめての大鐘の開墾は私達が三年生の時でした。原野一反歩を開墾し、そばを蒔いたりしましたね。

**司会** 開墾のはしりですね。後になってくると直接鉄工の釜を作ったり、武器のほうにという、そういう流れがあったんですね。

**高橋(敏)** 時代の要請で最初は食糧増産、次は農家のお手伝い、それから学徒動員令により直接武器の生産に携わる学徒動員、卒業生は女子挺身隊に動員されましたね。

**司会** 女子挺身隊とか、勤労動員などに行った人達とかの手記やなんかがでていますけれども、知らない所に行つて大変だったんですね。

**佐藤** 芳賀さんが、本を出していますね。

**岩淵** その中でも学校に入った人達もいるんですよ。挺身隊に入らずに。師範、ごく少数でしたが。私も東京の日体大いったもんだから、ぜんぜん話が合わないわけ、挺身隊に行っていないからね。帰ってきてからいろいろお話を聞きすると、ずいぶん苦労をなさったようですね。

**佐々木** 勉強がなくてね。そういう意味では楽しかったですよ(笑い)。私なんか、小説ばかり読んでました。貸本屋がありました。

**佐藤** 私も楽しかったです(笑い)。食べ物があるんだん足りなくなりました(笑い)。

**司会** なるほど、苦労の中にも若干そういう楽しみもあったんですね。

**佐藤** それに、誰も空襲にあつて、お亡くなりになった方がいなかったのもよかったですね。

## 女学校へのあこがれ

**司会** そうでしょうね。ただ、前段の人達はそれどころじゃなくて、地元で、根っこ起こしをしたりなんかしたわけでしょうからね。授業なんかはどうだったでしょうね。

**高橋(敏)** 私達が、水沢高女に入学したのは昭和一三年の四月でした。その当時、県立の女学校は、水沢町、前沢町、金ヶ崎町、胆沢郡にここのかないということもあり、距離的に近い江刺の人達も、ここを受験したわけです。私達の三、四年前から水沢高等女学校に合格したという喜びを強く感じるくらいでし

た。やっと合格した、頑張らなければと思っただけでした。

**岩淵** 敏ちゃん達ときは、ある程度受験地獄でしたものね。

**高橋(敏)** 制服に皮靴、そして英語……。女学校にたいしては、大変憧れが強かったですね。

**高橋(成)** そうでしょうね。でも、私達のはちょうど東北六県が大凶作で銀行パニックが起きたり、経済的に農村が疲弊していた時代で、入学希望者がうんと少なかったんですよ。女学校側や卒業担任の先生方が家庭訪問までなされたんですね。一〇〇人定員のところに十人足らずだったかしら……。で、私達ときは口頭試問だけね。ちょうど三陸津波のときで、「今度の津波はどこだったんですか」なんて聞かれましたね。ペーパーテストなんてありませんでした。まことにのんびりしてましたね。でも、経済的に余裕のある方々は沿岸や一関地方、江刺方面からもみえて寄宿舎に入っておられました。

**高橋(富)** 古き良き時代でしたね……。司会 昭和一〇年あたりはものすごい凶作でしたものね。

**高橋(成)** 農家の娘さんが身売りしたとか、そんな話もありましたね……。岩淵 富多葉さんのときもペーパーテストでしたか？

**高橋(富)** ありましたよ。ペーパーテストと口頭試問でしたね。

たか？

**岩淵** 私のおときは口頭試問と体育でした。内申はあつたかもしれませんがね。

**司会** そうすると、学校に入るといふ流れからみて、高橋成子さんのときはもう、凶作続きで学校に入る人もなくて、どうぞ入って下さいと言つて面接程度、高橋敏子さんあたりからちゃんとペーパーテストがあつて……。

**高橋(敏)** 私達より三、四年ぐらい前からかと思ひます。ペーパーテストと口頭試問をして、受験生が多くなつてきたのですね。

**司会** そして、岩淵さんあたりについて、だんだん戦争が激しくなつて来ると、健康な人と……。まさしくそういった時代の背景が入学試験のなかにも、あるいは受験生なかにもあつたんですね……。

**岩淵** 丈夫でない人はやっぱり入れられなかったですね。

**佐藤** 口頭試問はびつちりあつたわね。

**佐々木** 小さい部屋で一人ずつね。何を聞かれつつたのかしら……。(笑い)。

**佐藤** あと、ほら、私達のおときは短棒投げがありましたね。

**齋藤** 私達のおときは体育はありませんでしたから間違ひです。

**司会** 一種の体力テストですね。

**佐々木** 入学試験の時ではなくて、入つてからですね。

**岩淵** 私達のおときは入学試験のときでした。

**高橋(富)** 当時の体育の先生が非常に熱心ですね。

**高橋(敏)** 田村光政先生でした。当時の黒

中から水沢女学校にいらしたもんだから、大変厳しくて、男性的な活気溢れる先生でしたね。

### 創立三〇周年の背景

**司会** ま、そんな時代背景があつて、最初にできた学生生活があつて、私はまったくわからないんですけども、創立三〇周年ですか、昭和一五年を軸にしてお話をふくらましていただけますか。

**高橋(敏)** 昭和一五年の創立三〇周年の時代背景としてちよつと戻りますけど、私達一年生のおとき、昭和一三年ですね、満州国の大使がこの水沢を通過するというので、大変力を入れて満州国の国歌を習ひ、歌いました。楽譜を今日齋藤さんがお持ちです。

**司会** それはとても貴重な資料ですね。

**齋藤** 一三年の九月にはヒットラー・ユーゲンともいらしますが、そのおときも歌を歌つてね。そして、私達、一年生のおときまでは、バザーがありました。そのバザーで、出品した品物がいただいた資料に廃物利用賞品授与となつて出ているんです。

**高橋(敏)** 裁縫の教材はまだ新しいものを購入することが出来ましたが、廃品を利用したものも展示するという形でした。また、書道とか、絵画にも力を入れましたけど。

**司会** そしてその益金を慰問袋に入れて戦地におくつたんですね。

**司会** そういえば、手元にある資料を見ますと、

一三年の一〇月に、四年生県立六原農場に五日間、本校としては初めての試みで、以後一八年まで続く、とあります。

**高橋(成)** 私達のおときは京都までで、一級下からは東京まででした。祇園を見たり、とても楽しかったですよ。

**司会** まだそのころは優雅な修学旅行でしたね。いちばん惨めだったのは、集めたお金が国債に変わつて、その国債も換金できないでしたつたという……。(笑い)。

**齋藤** あのう、体操のおときはスカートのままな

**高橋(成)** ええ、私達はスカートでした。選手の方はヒダ入りブルマーをはいておられましたけれど……。

**齋藤** 私達一年生のおときに、入学してすぐに裁縫の時間にキャラコで、体操の時のユニホームをつつくつたんです。その次にブルマ、体操のおときにブルマーをはいて……。

**佐々木** そのブルマーもスカートのようにひだがあるんですよ。そのひだをちゃんとたてるのがおしゃれの秘訣でした(笑い)。

**高橋(敏)** 生地もスフ入りの綿サージでしたよね。

**司会** ちよつと一三年頃スフが一番最盛期でしたよね。

**齋藤** そして、次に夏の制服をつつくつたんです。一年上の方まではセーラーカラーでしたけど、わたしたちのおときから、丸い襟になつて水と

いう刺繍をしましてね。

**岩淵** 私達は国民服といつて白いカラーをつけ

たへちま襟で。

**高橋(敏)** 岩淵さんたちからどの学校も同じ服装になつたんですね。

**司会** まさしく拳国一致体制ですね。それ以前までは特色がそれぞれあつたわけですよ。ね。**高橋(敏)** 卒業まで冬物の制服は洋服屋さんに入学的の時仕立てていただいたものを着用しました。四年生のおときはスカートではなく、もんぺに下駄というかつこうでしたよ。

**高橋(富)** その下駄も白木で、塗つたものはだめだったんです。靴はなかつたんですもの……。

**司会** みんな兵隊さんのところにいつちやつてね。

**高橋(敏)** 戦火はひろがり、太平洋戦争になり、とたんにすべてが窮屈になつて……。

**高橋(富)** さっきの履物の話ですけどね、昭和一七年に籠球部が県下で優勝いたしました。明治神宮の全国大会へ出場しました時に、うんと暑い七月二十七日に焼け付くように暑いところを裸足で試合したんです。屋外で、でもよそからいらした選手の方たちは、ちゃんとバスケットシューズを履いていたんですね。

**司会** 高橋成子さんのころは、服装はもつとお

おらかだつたんですね。

**高橋(成)** そうですね。入学する前に、洋服屋さんに行つてちゃんと計つてもらつてね。夏服もまえもつて注文しました。

**高橋(敏)** バザーの益金で慰問袋をつくり、

その中に各自の手の平に乗るくらいのお人形をつくつて入れましたよ。私達は、授業はつづれなかつたんですが、国語の時間に慰問文をよく書かせられました。

**司会** 一三年あたりは、ちよつと見ますと、県下中学校競技会で、籠球、排球、陸上競技だとか、そういうものにも力を入れていつたんですね。

**高橋(敏)** 汗みどろになつて。私達はいまでも残念なのは、一年生のおときから旅行費を積立にしていたのです。私達より二年上の水沢高女一四回生までは修学旅行もありました。また、一年上の人達は紀元二、六〇〇年奉祝聖地参拝という名目で行われました。その時は岩手県から臨時列車をしたてて各女学校がその臨時列車で出発したのです。私達の十六回生のおときは修学旅行全廃。それで、その旅行費の積立て金が確か十数円だったと記憶していますが、国債でいただきました。その国債が同級生の誰に聞いてもようとしてわからないのです。

**齋藤** 国債そのものをいただいたのは私も覚えて

います。

**高橋(敏)** 国債をお金に換金するという時代ではなくなつて、それはそのままになつてしまったのだと思います。私達は旅行らしいものもなく、心身の鍛練ということで、岩手県立六原農場に五日間入所して、開墾とか、草取りをしたということです。

**司会** さっき、バスケットの話がでしたが、浮き沈みはあつたにしろ、伝統的にかなり強かつたですね。弓道も。

**高橋(成)** 弓道は正課になっていましたもの……。薙刀、懐剣も正課で白の元禄袖の上

衣、下は袴で新聞にも稽古姿が載りました。**岩淵** 三〇周年のおときに、バスケット部が神宮大会に行つて、一年おいて私達が出場しました。

**高橋(敏)** 昭和一五年、一〇月二六日、二七日、二八日と、三日間に渡つて行われた創立三〇周年記念行事が、ちよつと菊日和ととても強く印象に残っています。

### 青春と戦時

**司会** その辺の創立記念について、お話いただけますか。

**齋藤** 岩淵さん、独唱なさつたの覚えてますか？

**岩淵** 一年生のおときでした。

**高橋(敏)** 三日間の記念行事で、記念式典、音楽会、展覧会などがありましたね。

**司会** 展覧会はどうなものを……。

**高橋(敏)** 書道、絵画、裁縫、手芸を中心に。手芸裁縫は今もお元気の千田ヨシエ先生がとても張り切つて教えてくださったのを覚えてお

ります。

**齋藤** 布などもないわけですから、家にあるものを持っていつて、それを染めて、そしてあの頃ペンテックスというものがあつて、色



いう面において、対外試合がなかなか出来なかつたんですね。

**本庄** 野球が準決勝までいったのは、三四年の夏でしたね。あのときはよく覚えてますね。もう一息というところで……。あと卓球で佐原さんなんかが全国大会に行つて。

**後藤** あのとときはね、シングルで東北大会準決勝までいったのかな。

**本庄** ものすごく上手な人でしたね。あと、岩手県の記録が今でも破られていない、唯一の種目の三段跳びの人もいましたね。

**司会** 珍しい写真を持って来ていただいたんですが、その頃文化祭というのがあったんですね。旗を持って街の中を歩いている。

**後藤** 前夜祭ですね、それは。  
**司会** 行進している写真です。昭和三十年でしつつけ？

**後藤** そうですね。

**司会** すでにカッパ踊りの元祖があつたんですね。三人ほど裸になつて写っていますよ。この頃がカッパ踊りの最初ですか。

**後藤** そうでしょうね。

**本庄** でも、三四、五年はしなかつたですよ。途中途切れましたね。私は応援団でしたから覚えてますけれども。

**司会** でも先鞭をつけたのは確かですよ。これは文化祭の前夜祭ということでしょう。そうすると、文化祭にも結構熱が入っていたんですね。

**後藤** 一週間ぐらい授業をしないでやりました

ものね。校舎の中にね、山から木を切つてきてといてね、電機を置いてピカピカさせてね、肝試しをしたりね。

**本庄** いまは二日かな。

**後藤** 勉強が忙しくなつてきてね、今は(笑い)。

**司会** 文化講演会が、手元の年表を見ると頻繁にあるんですね。しかも特徴的に、服部博士とか池田博士とか、緯度観測所の先生方の講演が多いようです。朝日新聞の田中賢司氏の講演会もあるんですが、これはずっとあつたからですね。

**本庄** そうですね、三二年と三三年ですね。

**小野寺** 及川二郎さん、姉体出身の人も講演をしますね。

**司会** 天文講話とか、三四年、三六年には地球観測について講演が行われてますね。

**青木** 当時はね、結構、緯度観測所に働いている方の子弟が入っていましたからね。

**刀根** 服部忠彦博士の「宇宙時代と天文学者」(三五年九月一日)という講演をお聞きした

ときには、ずいぶん感動しましたね。それから三四年の山口達男外交官の講演の時も非常に暑い時で、我々生徒なんかはシャツ一枚でいましたけれども、背広の上下をピシッと着て、ネクタイしめて一時間の講演をされたことが、一番印象に残っていますね。

**司会** あとはコンサートとか、狂言だとかやつてたんですね。能と狂言を見る会(昭和二七年)もそれがずっと続いて、三七年には、野村万歳による狂言教室なんかも行われてま

すね。

**刀根** あまり記憶にはないですね。

**司会** 校長先生もめまぐるしく変わったんですね、あの頃は。昭和二九年に商業が分離し、別れの式なんてしてるんですが、どんな様子だったんでしょう。

**後藤** あんまり大々的なものではなかつたよね。おおげさな儀式というのはね……。でも、スポーツ関係で言うとな、いい選手は商業に行つたんですね。

**青木** 二年先輩は臍体で活躍し、相当の成績を残しましたが、商業が分離したことによって、人数も少なくなつたため、弱くなりましたね。

**司会** その時は、三〇〇人はいましたかね。

**青木** いやいや、普通科で三〇〇人ですよ。商業科が三クラスで二二〇人かな。その頃はやっぱり部活も盛んでね。

**後藤** 二九年で思い出すのは新入生歓迎マラソン、これが大変でしたね。

**本庄** どのへんまで走つたんですか。

**後藤** 釜石陸橋まででした。男女別で距離もちがうんだよね。男子は釜石陸橋まで。

**司会** 歓迎マラソンと言っても、シゴキみたいな……。な……。

**後藤** そうそう。不断町の北郷さんの前に水飲み場があつたんですね。先生がちゃんといつてね、手の平に判をもらうんです。で、三年生になると早い人のを写すんですよ。それで私達も三年生になつてそれをやつたんですね。あれはずいぶんきつかつたですね。

**司会** 本庄さんの頃は小谷木橋でしたか。

**青木** 交通の問題もあつたということですね。

**刀根** ラストで来ると歓迎されましたね。みんな拍手で迎えられたりしてね(笑い)。

**後藤** 杉山清先生という方は完走されましたよ。最初は歩いている感じで、生徒に「先生走ってますよ」なんて言われてね。でも結局最後まで……。で、生徒の方は疲れてもう歩くんですよ。そうすると逆に「マラソンなんだから走りなさい」なんて気合いをかけられてましてね。

## 旅行と園遊会

**司会** 修学旅行だとか、遠足なんでもあるんですが、資料を見ると、昭和二五年が最初なんですか？その前はないんですね。遠足が昭和三四年からですか？

**青木** 我々のときには、遠足は、なかつたですね。

**小野寺** 園遊会とはちがうんですか。

**本庄** 遠足とは言わなかつたから、園遊会ですね。これはね、タイガーさん(小野寺弘先生)が、ぜひ、こういうことをやろうということ始めたんですね、たしか。でも、場所が半入とか、小谷木橋ですよ、これは。

**司会** 僕達の時も小谷木でした。その時だけは男女一緒。男の生徒は張り切つて薪を集めてきたりするんですが、それが漆の木だったりして、次の日はすごい顔になっていたりね。  
**刀根** 水高に入って驚いたのはね、男女一緒に

入つたはずなんですが、右と左に別れていてね。

**司会** 中央廊下でしか会えないとか。

**小野寺** 音楽の時に移動するんですね。そうすると、我々は廊下の両側にずらつと並んで、女子生徒は狭い所を小走りに進む。

**本庄** 去年たまたま、我々の卒業の三〇年の会をやつたんですが、その時にタイガーさんが、さつき話があつたように、男女が右と左に別れているから、年に一回ぐらい、星でさえ会わなければならないかと私が企画してやらせた。それが園遊会なんだそうですね。

**後藤** それなら、なんで男女の校舎が別だったのかな。

**司会** 選択科目の関係で、男女が一緒にになりましたよ。

**小野寺** あと、コーラスでした。四部合唱なんてね。海老名先生ついでいました。ペーベン(トーベンの第九をやらされたりしましたね。ドイツ語の読み方を教わり、それをカタカナで書いたりしてね)。  
**司会** そういう時は女性がいないとだめだったでしょうからね。

**小野寺** そうですね、一緒にやりましたよ。

## 応援団の思い出

**司会** あの時の応援団は、一種、独特のものがあつたね。

**後藤** 今の応援団は専門化してきているんでしょう。我々の時はクラブをやっている連中

が応援団をやつていましたものね。だから、

**司会** ほとんどがダブっていましたものね。応援団リーダーとクラブ活動と。

**後藤** そうそう、今は独立してますものね。

**青木** 応援団だつて、あの頃は、なんら組織化されてなかつたものね。

**後藤** 好きな者がやつていた。

**青木** 僕らが応援団をやつたのはね、高体連が宮古であるから、それで行きたくて(笑い)。  
**司会** そうでした。クラブも二つも三つも部に入つたりして……。

**小野寺** 私達の時に早稲田の学生が、合宿をやりましたよね、たしか……。

**本庄** そうでした。

**刀根** 応援団リーダーの。

**小野寺** そうです。

**本庄** 素晴らしかつたですね。なんでだったのかよくわからなかつたですね。

**司会** 高力先生の関係かなんかですか？

**後藤** あのね、伊藤剛雄さん。

**本庄** ああ、そういえばあの頃、しょっちゅう学校に来ていましたものね。

**後藤** あの時は野球が強かつたんでね、それで甲子園に行くんじゃないかと言つてね。それじゃ、あんな応援ではだめだとか言つてね。いって、後援会なんかもつくつてね。

**本庄** 三四年の春休み、早稲田から黒田さん、坂本さんがいらしてね。一週間ものすごいシゴキにあつて、毎朝小谷木橋までランニングして、帰つて来るとあそこの土手のところ

これだ(手を左右に振る)、それで腰は痛いわ声は出ないわで、の状態だね。それで終わりとと思うと今度はサッカー場に行つてウサギ跳び、あれを一週間やったらさすが声は太くなりましたけどね。

**刀根** 本庄さん達は、それで合宿をして鍛えられて三年生でしょう。僕達は一年生に入つてもう、大分苦しめられましたもの。

**本庄** でも、後輩にもやつたでしょう(笑い)。

**刀根** いや、こんなすごいとは思わなかった、ほんとに。自分達が教わつた分だけ後輩に……。

**青木** そういうことはどこでもあつたんですよ。ね。

**本庄** でも、要するに新たな息吹を応援団からということだね。ただ強要するようなやり方でなくて、ここはこういうふうにとか、ポリシイを持ったやり方でしたよ。

**刀根** そうそう……。たんにいじめるのかなんじやなくて、ピリツとしておりましたね。あのう、リーダーが各教室を回つて応援歌を歌わせるなんてやり方は青木先輩の頃はあつたんですか？

**青木** いや、なかったですね。入学式が終わつてから体育館で、先生を外に出して……。

**後藤** クラブに入った者は帰つてよい、クラブに入らない者は残される。そして三年生からしごかれる。要するにクラブに入れたかつた……。

**青木** 応援歌練習がいやでクラブに入るとい

つ頃なのかな。

**青木** 岩谷堂から来るようになったのは俺達の頃で、その前は釜石陸橋から出たんですね、陸橋まで走つたもの。

**刀根** たいてい水高の生徒しか乗っていないから、我々と一年生は、どんなに早く乗つても、先輩に席を譲つたものです。バスの中でも応援歌練習だと言われてずっと立っていたもんです。一カ月位続くんですよ。そして岩谷堂からの生徒は体育館の練習の時は恥をかかないようにと言われましたね。

**小野寺** 私は小山なんですけど、天気の良い日は自転車通学で、雨の日はバスですが、笹森までなんです。笹森から歩くわけですよ。学校に着く頃にバスが来て、ああ、岩谷堂の人達はいいなあなんて思っていたもんです。

**刀根** 一年生の時はバスですよ。二年生の時に軽自動車の免許を取りましてね。時々バスに遅れることがあるんです。そうすると家からバイクを持ち出して……。

**司会** バイク通学のはしりですね。

**青木** そんなに規制がなかったですよ。先生との距離もひじょうに近かつたし……。

## 教師達のプロフィール

**司会** この頃は、いわゆる名物教師がいて、例えばカツパ踊りの元祖や……。

**小野寺** 運動会の時の杉山先生のタコ踊りは、昔からあつたんですか。私達の時はありませんよ。

のも多かつたですね。ま、要領のいいの、そして、二、三カ月でクラブをやめてしまうのもあつたしね。

**刀根** 応援団のリーダーに三年生がぞろぞろついてくるんですよ。そしてクラブ勧誘をするんですが、キオツケの状態で、緊張して何も言えなくなるんです。それが、リーダーなのかクラブの人のか区別がつかないんですよ。ね。こわかつたですねえ。

**本庄** 今みたいに弊衣破帽でやるようになったのはいつの頃からですか。

**青木** 我々のあたりは普通でしたよ。

**司会** むしろ、先輩達のあたりは、服部さんなんかは幼稚園のリュックサックしよつて学校に来たり、いろんな格好をして……。

**後藤** 制約がなかったんですよ。なんの帽子をこんなふうにかぶれとかね。

**青木** その当時の生活が、だいたい今みたいない生活じゃなかつたんだものね。

**司会** そんな背景があつてですか、昭和三十一年に、生徒会授業料値上げ反対決議があつて。

**青木** そういうことあつたかなあ……。

**司会** 年表にはあるんですよ。二月に。

**青木** 生徒総会に出たことなかつたからなあ(笑い)

## 通学の風景

**司会** それからその少し前に売店でパンを売つたり(二九年一月)、バックルの制定(三年二月)をしたりという……。

**司会** 見たことないですね。

**本庄** 高いところ上がつて踊つたんですよ。**小野寺** 確か、一〇周年の運動会で、盛大にやつたんですよ。あの時の杉山先生のタコ踊り記憶にありますね。三三年ですね。

**後藤** 運動会のときに、野球場にグラウンドを移したのはいつからですか。前は陸上競技場でやつたんですよ。

**青木** 一年生のときは、向こうの広いグラウンド(競技場)でやつたんですよ。で、二年生のときにこつちに来たんですよ。**後藤** 四〇〇のトラックでしょう、ポチヨツ、ポチヨツとでしょう、全然おもしろくないのね。あんまり広くて。

**司会** 三四年に若田芳助先生の校葬をしているけど、なかなかユニークな先生でしたよ。ね。お亡くなりになったときに、杉山先生がお経をあげたという話を聞きましたよ。

**青木** 本庄に、いい先生方がいっぱいいたなあ……。学校出たての先生が結構おりましたものね。友達感覚で……。

**司会** そういえば、男女一緒の授業で、いつも男性の方しか見ない先生もいて。

**青木** 国語の先生で、英語の授業のときに後ろでメモをとっている。あれは勉強してたんですよ。僕は二年三年と担任だったけど、ずいぶんなぐられました。それが泣いてなぐるんですよ、あれはこたえました……。

**司会** 痛さよりも、そつちのほうがかたえますね。

**後藤** 確かにありましたね。中央廊下に売店を設けて、そうでないと生徒が外に買いにいけません。そのまま、帰つてこないですよ、ね。授業に(笑い)。

**司会** ハヤベンしてしまうし、昼飯がないから……。

**本庄** 浅利さんと、通称シジミさんというお店があつたね。

**司会** パンだけ売つたんですか。

**後藤** 文房具も若干売つたんじゃないかな。**司会** 記憶にないけど、生徒達がやつたんですか。

**後藤** 販売部のなんかあつたんじゃないかな。たいした売れたんですよ。並んで買ったもの。少し授業を早く終わらせてね。

**青木** 借金もして、まだ払ってないかもしれないあ(笑い)。

**本庄** 話は変わりますが、岩谷堂からバス賃はいくらでしたか？

**刀根** 朝七時半に出て来て、ここに八時ちょっと前に着く直通のがあつたでしょう。三カ月定期で三、九〇〇円だったかなあ……。

**青木** そんなに高かつたか。

**刀根** 私達の頃ですよ、三四年。いや、六カ月かな？

**本庄** 岩谷堂まで、一〇円ぐらいじゃなかつたかなあ。

**刀根** あの頃、大人が三五円か、四〇円ですね。

**後藤** 市内が一〇円です。

**司会** ここまでバスが来るようになったのはい

**小野寺** 今も、そういうユニークな先生はいらっしゃるんですが、当時のような方はねえ。

**後藤** 今は父兄がうるさいから。当時は学校の先生がたたくのはありがたいんだと、父兄が思っていましたから(笑い)。

**青木** 僕は学校時代の行事はあんまり記憶にないけど、友達だけは大事にしましたよ。

**本庄** 先輩たちは、修学旅行は北海道でしたか？

**後藤** 関西です。

**本庄** 先輩の、二年前に希望したら、北海道に行けたとか。

**司会** 昭和二五年あたりは北海道になってますね。

**本庄** 生徒の希望したところに行けたんだそうですね。

**青木** あのあたりは、本当に食べものがなくてね。

**司会** 修学旅行で？

**青木** そうそう、ある同級生がバナナを食べてたんですよ。バナナなんて見たこともないんだものね。

**本庄** 確か二九年卒業の人達は北海道ですよ。

**司会** 希望でそういうふうになったと聞いています。教師と生徒関係、生徒同士の関係とかがうまくいっていた時代だったんですよ。生徒達の言い分も通つてみたりとかがあつたんですよ。



になっても続けて行くということが少なかつたんですよ。例えば中学で野球をしていたのが高校では違うものをしたとか、ちょうど私達の時にはどこもあまり強くなって、ま、山岳部は私から見れば特殊な部という感じがありました。好きでセンスのいい人達が集まっていたような気がします。それ以外の部でいうと、一生懸命活動はしていたけれども、どうしても全国大会に出たいんだと力んでやっていた部は、なかったような気がしますね。

施設がどうこう言うよりも、集まって来るメンバーによるんじゃないですか。ただそのメンバーがさつきも出ましたが、素材はみんな同じなだけども、先生によって磨き方がよければいいメンバーに育っていくという。

及川 あとね、国体でね、大学時代に活躍した先生がひっぱられてきていますね。あのう学生時代に何かしらその若干実績を上げられた先生がいらしてましたね。だから、そういう先生がいらつしやる部はハードにやっていますね。バスケットの先生なんかは二人いましたしね。柔道の先生も五段の方で、日曜日、NHKの八チャンネルの東北大会なんかでやっているのを見たものね。

小沢 あの先生おもしろい先生でしたね。

司会 国体というのは結構、引き金になってたんですね。

及川 これもひとえに大先生の構想のおかげです(笑い)。

## 旧校舎と新校舎の頃

司会 新校舎についてですが、またまた年表を見ますと、昭和四五年頃から気運が出て来て、ちょうど志田さんが卒業する頃ですね。四七年に初めて第一回の運営委員会というのかな、期成同盟会が開かれて陳情請願し、四八年からの工事の入札で解体開始になっていますね。最終的には昭和五二年に式典が開かれたんですね。ちょうど過度期にあたられたですねみなさんは。エピソードなんかは……。

小沢 一番あれなのは、佐藤さんたちの頃はそういう話は聞きますね。校舎がなくなるのだからといって、板の壁を壊して薪にしてみたりとか、床に穴が空いていればそこはゴミ箱だからゴミを捨てるか、我々の一年生の時だけはね、旧校舎にはいったんですが、全景は止めていなかったんですよ。すでもう解体してましたから。ですけれどなくなるものだからといって、そういう同じノリのことはずいぶんやりましたね。

司会 そうすると、ちょうど志田さんとか及川さんとかのところまで昔の校舎？

志田 そうですね。

及川 で、昔は雨が降りますと野球部なんかは廊下で練習したんですよ。兎跳びをやったりしましてね。

佐藤 冬の便所ですね、一番あわれだったのは、雪が積もってましたからね。

及川 とにかく、汚かったですね、驚くべき便

所でした。

佐藤 でもやっぱり愛着がありますよね。あの校舎には。

小沢 俺達、便所の話しと云えば、夏の合宿の時、最後の日に打ち上げをやって肝だめしをして、体育館の裏でしょう、そこからずっと玄關まで行って旧館まで行って奥に便所がありましたよ。あそこに自分の名前の札を置いて来いとか言われて、一時とか一二時にね、その前にさんざん怖い話を聞かされてね。そんな思い出があるなあ……。

及川 我々の時は教室に泊まりましたものね。

司会 部活で。

及川 関係無くてね。庭で火を炊いたりしてね。

佐藤 我々の時つてのは、七〇年代ですだからね、片や学生運動を盛んにやっている時でしたしね。ま、高校の中にはいまませんでしたけれどもね。なんかその、勝手なことをやっていた部分がありますよね。

小沢 ありましたね。なんかだめだと言いながらも先生も大目に見ているという。

佐藤 それはありましたね。数学で私、追試を受けましてね。その数学の先生が、「佐藤は数学はだめだけれども、エレキは上手だな」なんて言われてね、おだてられましたね、非常に励みになりましたよ。物理の先生かな、ご自分でスチールギターを弾いたりしていましたね。

司会 新しい校舎になっちゃうと、逆にそういう

う風潮がなくなってくるということはないですか。

佐藤 そうだね。

小沢 つていうか、私が一年の時の三年生というのは、我々よりも自由というか、先生達もそうだったのかな。本当に高校生活を楽しんでいるという感じがしましたけれども、ただ新校舎になってからというとなんか画一化された部分というのが……。あまり突飛なこともしちゃいかんと、ほどほどにという感じでしたね。

司会 そういう意味では、立派な学校が出来たために自由な雰囲気というか、まさしく青春を謳歌するという雰囲気が薄れていくみたいなことが多少あるかもしれませんね。

志田 校舎というよりも昔はキャンパスという感じでしたものね。どこも全部学校という感じでしたからね。音楽部なんかも外でやったりと、そういうことが平気でしたね。

司会 なるほどね。施設が立派になると、精神的に解放された感じというのが少なくなっていくんですね。

佐藤 昔のほうか面積を広く使っていたものね。生徒自体の行動範囲が広がったんじゃないですか。

及川 三棟建っていたんだっけ？ 結構疲れたものね。運動会なんかしてね。端から端まで何分で走れるかなんてね、つまらないことやってましたね。

司会 新校舎というのは、移動するには……。

佐藤 そう、効率はいいでしょね。

及川 非常に授業中くさったときは気分転換に外に、すいと出れましたね。

司会 前の校舎ですね。

佐藤 そう、豚が逃げて来たりね。あと、下に掃き出し口があつて出席だけとつてあととは逃げたりね。

及川 三年生になりますとね、一生懸命勉強する組としない組に分かれてましてね。きらいな先生、きらいな学科は下級生にまじって体育をしたりしてね、ラグビーしたりしてね。あと、弁当食べにきただけという思い出もありますね。伸び伸びしてましたね。

小沢 平屋だったというのも一つの特徴だったかもしれないですね。

佐藤 校舎内を自転車で行ったよ。

小沢 窓から飛び降りても怪我もなく出れるという、平屋だったという解放感があったんじゃないですかね。

司会 棟毎に中庭なんかあつて。

小沢 ええ、ありましたね。

及川 りすがいましたね。

小沢 そしてほら、裏のいま南中に通っている広い道なんかは無かったから、奥の林までどこが敷地なのか判らないので、どこまでも遊べた気がしますね。

及川 奥の林はですね、不純異性交友の場所ですね、喫煙の場所とかね(笑い)。

佐藤 弓道部でレギュラーになれなかったのが、悔し紛れにキジを撃つたら当たりましてね

(笑い)。そんな話いっぱいありますね。

## キャンパスの息吹

司会 旧校舎もそういう意味ではなかなか捨てた難いものがありましたね。それでどうなんですか、受験戦争みたいなものが、だんだんエスカレートしてくると……。

佐藤 勉強した人はできたんですね。しない者はできなかった、邪魔しなかったんですね。はつきり分かれていましたね。

及川 いや、頭のいいやつも結構クラブ活動してたよ。

小沢 俺達の時もラグビー部でもかなりの上の成績のがいて、それでも部活はサボったことがないという。

佐藤 バスケットでも東大に行ったものもあるしね。

小沢 でも俺達の頃は、あまり勉強しないやつでも、優しかったというか、協調性はあったね。

佐藤 みそも、くそもいっしょじゃなかったものね。できるやつはできていいのだ、君達は学業で全うしろ、僕達は人間関係だけで生きていくと(笑い)。

司会 学校の校歌ですが、最近の校歌は聞いたこと無いからわからないんですが、さつきちらつと聞いたところによると、歌詞がかわったわけでもなんでもなくて、歌い方が変わったんですか？ いつ頃からそういう……。

佐藤 ええとね、応援団が教える時に一生懸命

で、声が潰れるまで歌わせたんですね。メロディは無視になったんですね。

志田 ああ、最初から……。

司会 それは四九年あたりから。

佐藤 いや、その前からだと思っただけですね。

小沢 佐藤さん達が入学してからだと思っただけから。

司会 志田さんあたりは。

志田 オースドックスでした。

司会 そうすると、四六、七年あたりですか。

志田 野球の応援を見た時になんだこれは、と思っただけですね。

佐藤 県大会とかに行った時はもう、あんな歌い方になっていましたよ。

司会 でも卒業生とか何かの時にはちゃんと歌っていたのかな。

小沢 ちゃんとだね。

司会 いわゆる、スポーツの応援だとかの時には、そういう……。

小沢 応援歌の延長みたいな形で歌っていたね。

志田 いまあれですか、式典なんかで歌う時は、オースドックスに歌いますか？

小沢 応援歌練習なんかで俺達の時は、土手に並んで、一人づつ自己紹介をやらされてましたね。そのとき、校歌というものはこういうふうに歌うもんだと。式典のときはそんなに騒がなかったね。

司会 そうすると、校歌を教えられるときは、正調をちゃんと教えられたわけ？

小沢 いや、応援歌の練習のときは正調は教えられなかったね。

佐藤 ソノシートかなんかもあったね。

及川 だいたい、昔は応援団もあんなに汚くなかったものね。歌い方も身なりもひどくなかったね。

司会 声を出せていうのはあったけれども、ああいう、怒鳴るような延ばすような歌い方は聞いたことがなかったから……。

小沢 応援団の団長さんというのは、俺達が入学したころは、リーダーシップをとれなければならぬみたいな、全ての意味で優等生の連中が代々やってきたんです。そこには、カチツとしたものがありましたね。教え方もよかったですね。どこかで作られた伝統なんですよ。けれども、私達るときはそうでしたね。

司会 正調で歌うのは、歌えないわけじゃないでしょう。しかし、どうしても校歌というものがセレモニーとして歌われるのは別として、やっぱり、在校中、校歌の印象的な場面というのにはなかったですか。愛着というのには。

及川 ……ないね。校歌を歌うより君が代を歌えてって言われたものね。盛一では歌ったぞとかね。

小沢 ただ一生懸命歌ったね。第一応援歌のその前という感じだね。

司会 その他思い出のようなものといえば。

小沢 クラスマッチかな。

及川 クラスマッチは、ラグビーが花形でしたね。そして教員組と対抗するのを非常に生きがいとしたという、先生も若いから、むきになって向かって来た。

あの頃は、先生も真剣だったからね。

司会 クラスマッチというのは運動会よりおもしろい。

小沢 そう、運動会より盛り上がりましたね。ある一定の期間があったでしょう。二、三日とかね。

司会 じゃ、文化祭なんかはどうでしたか？

小沢 あれは、三年に一回でしょう。ですから当たる年によると思いますよ。俺達は二年生のときでしたね。一年生で当たった人達ってのは何も印象ないし、三年生の人は目の前に受験を控えているし、だから、二年生ぐらいの時に当たると思いつきはしゃげますよね。

司会 そういう意味では文化祭というのは問題があるのかもしれないね。

佐藤 ロックとフォークが盛んな頃だね。一生懸命やりました。

志田 むしろ、予餞会の記憶はありませんか。

及川 あれはひどかったね。

志田 ヤジは飛ばしね。

司会 文化祭よりも、予餞会のほうが、そうすると印象が強いと。

佐藤 そう、水泳部なんかは、そこから飛び込めなんて言われてね。

司会 時間が充分取れず尻切れトンボになってしまいましたけど、皆さんありがとうございました。

## 座談会

# 21世紀の水高を展望する

### 出席者

高橋 満 校長

及川 源悦郎 同窓会会長

油井 孝雄 PTA会長

司会 鈴木 慧 同窓会副会長

### 九〇周年を迎えて思うこと

司会 “われらが母校水沢”高校は本年度創立九〇周年を迎えたわけですが、皆さん、それぞれに感ずるところがあると思います。まず初めにその辺のところからお聞きしたいと思っ

ます。

高橋 百周年を踏まえての事業として

高橋 百周年を目前にしてということ踏まえて、同窓会でも九〇周年をどう展開していくかということを考えてこられたようですが、

大事業である百周年に向けて、これからどういうふうに行っていくかというところが、私の今の関心事ですね。

油井 一〇年前の八〇周年では、同窓会長さんをはじめ多くの方が、資金面などで大変苦労なさいました。それが、九〇周年の今年、自分自身がPTA会長に選ばれて内心大変なことになったと思っておりましたが、九〇周年においては、前回のよう特別な大きな事業として取り組むこともないということ、正直なところほっとしております。

中央廊下は思い出の「三八度線」

油井 ところで、私は五三回、昭和四〇年卒で、高校で言えば一七回の卒業生ということになります。既に男女共学でしたが、共学と言っても名ばかりで、男子クラス、女子クラスとクラスは別々でした。東西にのびる中央廊下を挟んで、南側の校舎三棟には男子、北側の三棟は女子と別れており、唯一男女が顔を合わせるのが中央廊下。そんなわけで私達は中央廊下を「三八度線」と呼んでいました。そういうことを思い出していますと、今の生徒達は恵まれていて、いい状態にあるんだなと思えます。

及川 百周年というのは校長先生が言われたように大きい事業でしょうから、九〇周年は比較的小規模なものにしたいということで、同窓会としては大変ありがたいことです。それにしても九〇年というのは大変な歴史ですね。

私は昭和二六年の卒業なんです。

司会 高校三回の卒業生ですね。私は七回で三〇年卒。今年はどう卒業後四五年ですか

ら会長さんの場合は卒業後四十九年になりますね。

及川 そうですか、五〇年に近いのですか。今の龍ヶ馬場の校舎には我々が入っていませんから、あまり実感は湧かないですね。水沢高校は水沢を中心とした胆江地区にあって、その存在の意義というのは非常に大きいし、それが、九〇周年を迎えたということは、学校だけの記念ということではなくて、卒業生をはじめ、地域みんなが良かったと思っ

ていないですか。そういう意味ではお祝いをして当然だと思えます。

司会 校舎の話が出ましたが、現在の龍ヶ馬場に新校舎全棟が完成して、全学年が揃ったのが昭和二七年の確か夏休みの直前でしたね。それまでは堀の内の現在水沢小学校の場所が県立水沢中学校の校地でした。これで、吉小路にあった県立水沢高等学校と道路一つ隔ててその北側にあった県立水沢商業学校が統合されての水沢高等学校が文字通り完成したわけですね。余談になりますが、私と同期の新制水沢中学校卒の仲間、中一の時は旧女学校の校舎に、中二の時は商業学校の校舎に、中三の前半はまた女学校の校舎に、そして途中から旧制の水沢中学校の校舎で学びました。そして、水高入学の一年生の初めの四ヶ月間、また商業学校の校舎に入り、それから龍ヶ馬

場の新校舎へと由緒ある校舎を全部経験したわけです。私事で恐縮ですが、私自身はそれに加えて教員として最後の四年間を昭和五二年に新しく落成の現校舎で過ごさせてもらいました。

**油井** そうですか。ずいぶんご縁が深いんですね。以前の校舎は一階建ての平屋、いわゆる兵舎で、職員室だけが二階建てでした。

**及川** 今でこそ立派な校舎は県内でも見られるようになりましたが、新校舎完成当時はまさに大学並みの建物ということで、多くのPTAなどが視察に訪れたりしたそうですね。

### 水高に地域が期待するものは

**司会** さて、本題に戻りましょう。今お話を伺いましたとおり、九〇周年は百周年という大きな目標に向けての大切な一歩を踏み出す年だということだと思います。今日の座談会の一番のテーマは九〇周年の式典その他の内容を同窓会でいろいろ考えましたように、あくまでも次の百周年を目指してのワンステップというのが基本姿勢ですし、二一世紀を目前にしてこれからの水高を展望するというのが狙いですので、そういったあたりを今日はお話いただきたいと思っております。

そこで同窓会長さんにお伺いいたします。水沢地区というか胆江地区と言いますか、水高に対して地域はどのような期待を持ってきたんでしょうね。また、一方で、水高はどのような役割を果たして来たと思われませんか。

水高に勤務されていて、また今年四月から校長として就任なされたわけですが、先生はこれまでのお話の中から、水高は地域の期待、親の期待にどういうふうに応えて来たと感じておられますか。

**高橋** 今、同窓会長さんもPTA会長さんも十分応えてきていると言われ、ありがたいお話でしたが、目標をもっと高く持っていない学校ではないのかなと思います。かなり広い地域からそれに応えることのできる生徒達が集まって来ているのではないのでしょうか。

私が以前水高におりました時に感じてましたのは、それほどたくさん学校を歩いたわけではないのですが、この地域の水沢高校に対する思い入れというのは、他の学校とは違うなということでした。水高に対する地域の期待が強いとその時感じました。

多分、水沢地区の子供達は、他の地区の進学校にはあまり行ってないのではないかと思うんです。地元の学校はいいと言っておきながら、自分の子供は地元の学校でないところにやっている人もいないわけではないんですよ。でもこの地区では、それはないんじゃないかと思われませんか。

それはやっぱり、他の地域の学校にやるんではなくて、地元の学校に入れる、そういう強い気持ちがあるんじゃないでしょうか。そのような地域の想いが水高を支えているのではないかと感じています。

**司会** 水高に対するそのような地域の期待があ

**及川** 私が水高のために一般の社会の人達とかかわったのは、何周年目かの記念事業のための募金活動ですね。

その時に感じたのは、子供たちが水高で世話になって大学に行き、立派な職についている、学校に感謝している、といった人が多かったということ。そういう地域の若い人達の一定の期間を育んでくれる機能としては市民の要望にびびったりだと思えますよ。上の学校に行つて勉強したい、させたいという人達からみればありがたい学校だし、地域全体がそういう感じを水高に対して持っているんじゃないかと思うんです。

**大卒後、もっと地元に戻って来て欲しい**

**及川** ただ学校を出てしまうと水沢になかなか帰ってこないですね。九〇周年といつても、特に男子の卒業生は水沢にあまり定着していません。たとえば、市議員。このところ水高の卒業生が増えて来ましたが、今までは水農とか水商卒業生とかが多かったです。これからは水高出身者がここに定着し活躍してもらい、リーダー格になっていってほしいと思います。地域もそれを非常に期待していると私は思います。

**司会** 一方で、親としては、子供達にどういう教育をして欲しいと思つているのでしょうか。それに対して水高はどういうふうに対応してきたと受け止めていますか。

とお話ですが、同窓生としては、どうお考えでしょうか。

**及川** 油井先生のように地元に着着なされた同窓生もいっぱいおられますけれど、目立つのは、どちらかというと、都会に出て役人になったとか、会社の社長になったとか、そういう人が注目されがちです。そんな人達が水沢に早く帰つて来て、地元のためにやってくれば、尚いいと思いますね。

**司会** いわゆる地方といいますが、そういうところでは、同じような悩みを抱えていると思いますね。

**及川** 一方で水高の同窓生はそれなりのプライドを持っていますから地元にいようがまいが、母校に支援をお願いすれば、いつでも喜んでやってくれる空気が強いと思います。その点は大変いいことだと思いますけれどもね。

**司会** 各地の同窓会支部の活動などもそれを如実に表していますよね。

**及川** そうですね。各支部の活動もなかなか活発なものがあります。毎年総会を開催している盛岡支部をはじめ、平成七年に結成された名古屋支部は以後欠かさなく総会を開いていますし、仙台支部、江刺支部も定期的に会合を持っており、関東支部も昨年大々的に開催されました。ただ、かつては大変活発であった関西支部がこのところなりを潜めているのが、残念ですが。それに地元水沢の総会での集まり具合がもう一息といったところですね。ふるさととは遠くにありて思うもの、と

**水高入学はゴールではなくスタートライン**

**油井** 進学するための学校という位置付けとしては、水沢では、水高だという確固たるイメージがあると思います。それに親も子供も期待していますね。そして、それに対しては学校もその期待に応えてくれていると思います。

ただ、親と子供がどこに目的を持っているかということになると、もう一つあやふやということか、親の中には水高に入ったということがスタートラインに立ったのではなく、ゴールラインだという感覚があることも事実だと思えます。そういうことからいうと、そんな親の感覚が問題なのかなと思うこともあります。

それから、水高生は要するに将来水沢のリーダーになるような素養を持った子供達が集まっているということも、これは間違いないと思えます。胆江地区に三千名弱の中学三年生がいますが、水高に入るはその十分の一。入れれば誰でも水高に入りたいと思つているのも事実なんです。

けれども、その上の学校に行けば、同窓会長さんが言われるように、なかなか水沢に帰って来てくれない。私は仕事柄こうやって帰って来ていますけれど、私もやはり水高卒業生に地域のリーダーとして活躍してもらいたいという気持ちは持っております。

**地元の期待大の水高**

**司会** 校長先生は昭和五九年の四月から四年間

ということなのででしょうか。毎日とまではいかなくとも、しょっちゅう、いろいろな場で顔を合わせる機会の多い地元では日々これ同窓会みたいなものですからね。事務局でもいろいろ人集めに苦心なされてはいるんですが。

### 水高生への期待

**活躍の場は東北、そして日本全国で**

**高橋** 地域の人は地元に戻つて来て、地元のリーダーになつて欲しいという強い希望のように伺ったんですが、日本の広い舞台でリーダーシップを取れるような人間が育つ学校であつてもいいんじゃないかと、そういう気がしますね。

**「水沢高校つてすごい！」**

**及川** 余談になるかも知れませんが、かつて青森で同窓会支部を作った。それから二、三年後の支部総会に、水高の同窓会でない人が一人参加していた。どういう人かというところ、青森のテレビ局の幹部の方である。何故参加なさったのかを伺ったところ、「水沢高校つてすごい」とおっしゃる。

どういふことか言えば、その放送局の番組審議委員の一人に弁護士がいて、その人が水高の出身者だった。その後メンバーが替わつてN.T.Tの支店長が委員になったが、その人も水高出身だった。また、放送局の人が営業に歩いたところデパートの担当者が水高出身。取材で牧場に行ったら場長も水高出身。岩手

銀行と北日本銀行の支店長もそうだった。申告で税務署に行ったら副署長がこれまた水高出身で、青森の主だったところを水高卒業生が占めているとびつくりしたらしい。この方はこの他にもたくさん事例をあげていますが、「そんな水高ってどんな学校か知りたくて、会合があるというので来てみました」とおっしゃるんですよ。これは、同窓生が各地で活躍されていることのほんの一例とも言えるものですね。

#### 水高は文武両道の気風

**司会** 今のお話や校長先生のご希望のように、日本というか、東北というか、実際、広いところで皆さん活躍しているということですね。では、そのような人材を送り出して来た、水高における学校生活についてはどうなんでしょう。特に校長先生は、前のご在職の時に今度おいでになられてと、比べられて何か違いをお感じかと思いますが、いかがでしょうか。

**高橋** 大きく言えば、あまり変わっていないと思います。進学のために、学校生活を楽しくする行事を減らして行って進学に有利な体勢に持っていくという学校が県下でもないわけではない。ところが水高の場合はそういう行事を結構残しているんです。それから、部活動も一生懸命やっています。そのようなことから、大きな変化はないと思っています。ただ前もそのように感じましたが、それは望ま

い形なんだけれども、一方では受験という観点からすれば、やっぱり不利だと思うんですね。

難しいと言われる大学受験に現在成果を上げてきているのは、ほとんどが中高一貫校で、五年生の段階でカリキュラムを終えて、最後の六年目は完全な受験体制。一方、水高や県内のは他の学校もそうなんです。高校に入ってから三年間で高校の学習を終えるわけですよ。一年間遅れているわけですね。ところが最後の場面では同じ土俵で競わなければならぬということからすると、やっぱり受験勉強にシフトした体制をと思うんですが、そうすると、水高の持っているよさというのがなくなる。実際に前に感じたようなよさを今も持っているんですが、進学校として期待されているところを求めていこうとすれば、きびしいなというのが素直な思いです。

#### 現在の水高生像は

**司会** P T A会長さんが、在学されていた当時と、現在の水高生と、生徒像の違いは感じられますか。

**プライドと覇気が希薄に？**

**油井** 時代によって子供達の価値観とか態度とか変わって来るのは当然のことですが、それにしても、私の上の子供が水高に入学した十年前に、先生方に最初に言われたことは、お父さんお母さん方が自分が水高だった頃と同

じだと思ったたら大きな間違いですよ、ということですね。

進学を目標とした勉強に関してはその通りだと思いますが、ただ子供達を見てみると、もう一つ、水高生だというプライド、覇気、気概が感じられない子供が多いような気がします。そういうことを言い出したら根本の教育論になるんですが、燃え尽き症候群というんですか、能力がないということではなく、能力はあってもやる気をなくしているような感じを受けています。

また、私達が高校に入った頃は先輩も怖かったけれど、先生も怖かったです。ところが今、子供達は先生が怖くないではないか。教える者と教えられる者という関係は、あくまでも教える者は上座ですし、教えてもらう者は下座。そういうことを言うと古い考えだと言われかねませんが、そういうことは大切だと思っ

だから、一番上の娘の時なんか、水高に入学したんだからこれで満足、といった気持ちがあったように、他の子供も一部でしょうが、そういう感じがするんです。

周りの水高に対する、さつきもちよつと言いましたが、この地域の十分の一の生徒しか入れないという、親もそういう感覚があるからか、水高に入学することが最終目的というようなことが感じられる。そういうことを含めて、もう一つ水高生としての気概というのが一般に足りないのではないかと感じます。

#### エールの声も小さくなった

**高橋** 一方では、生徒の質というのが変わって来てるのではないのでしょうか。

その端的な例を紹介すれば、大方の学校では先生が転勤して来ると生徒がエールを送るんですが、前は、体育館の窓ガラスが割れるような腹の底からの声を出して校歌を歌ったし、エールも送った。ところが今は、三分の一くらいしか声を出していないし、歌っていない。これは水高とて例外ではありません。そのように生徒自体が変わってきているのかなという感じですね。

**司会** 変わったと言えば、母校に帰って来てがっかりもし、腹の立ったことは校歌が歌詞は当然そのままですが、曲が伊藤翁介氏作曲のものとは似ても似つかぬ「団調」とやらで歌われていることでした。一体いつの応援団から始まったのか知りませんが、これは作曲者に対する冒瀆にほかなりません。こんな失礼なことはない。退職の挨拶の際にもそのことは強く喋ったのですが、今年からは、応援団も大分変わってきたそうで、良かったなと思っ

ています。この件はさて置き、同窓会長さん、どうですか。一番長く水高と付き合っておられるわけですが。

#### いい意味でのバカになれ

**及川** 先生方ほどにはわかりませんが確かに思い切りぶつつかるといことはなくなっ

たかも知れませんね。それは高校だけではなく、一般的になくなって来たのかも知れませんが、職場に於いてもそうですよね。レジャーも楽しまなければならぬし、自分の趣味も生かすということ、思い切り己と他をぶつけ合うということは、時代の流れとして薄

れて来たのではないですか。  
**司会** それはいいことなのか、あるいは仕方がないことなのでしょうか。

**及川** 高校時代はそれじゃ駄目だと思います。思い切りやって欲しいと思います。たった三年間。それをやれないということは、可愛そうなことだと思います。

**油井** 自分の考えがまとまらないうちに、要領の良さだけ身につける子供が増えていよう気がします。もっと小さな子供の中にも、ずるくて要領ばかり良い子がいますよね。それでは子供として駄目ではないかと、そんな気がするんですね。

**及川** 大人の世界がみんなそうだからそれを見ている。

**司会** ただ、水高に入ってみんな急にそうなったということではないでしょうか。言ってみれば、もっといい意味でのバカになって欲しいということなんですよ。例えば勉強はそれほどではなくとも、野球バカとか、音楽バカとかいった〇〇バカに。これぞまさに個性と言えるような自分らしさに。

**高橋** そうであったほうがいいんじゃないでしょうか。

#### アダナは教師と生徒の親密度

**及川** 今どうなんですか。子供達は先生にアダナをつけているんですか。アダナというのは親しみがあってね。

前に在職していた先生が校長先生として転勤して来ることになったので、「今度の校長先生は〇〇先生だそうだ」とOBに教えたが、「わからない、誰だ」と言う。「◇◇だ」とアダナを言ったら、「ああ、あの先生か」とすぐにわかって、にっこりしてくれた。

生徒と先生の間の親しみということも人間形成の上で大事なことから、そういう面での先生に対する思いというのがもつとあっていいんではないかと思っ

ています。  
**司会** 人間関係の希薄さというか、帰属意識というか、それに関しては現役生徒ばかりでなく、比較的若い年代の卒業生にも変化が見られますね。いわゆる「同級会」を開くにしても、同じ学年全体ではなく、三年生の時同じクラスだった者達だけが対象の小さな同級会だったりして、言ってみれば「同期の桜」的な同窓年としての一体感が薄れて来ている面もあるようです。そんな関係からの要望もあって、今度発行の同窓会名簿は学年の男女別アイウエオ順ではなくて、学級単位のものになるようです。

**油井** 時代の流れと言ってしまうればそれまでなんでしょうが、なんか寂しいですね。

## 新教育課程と水高

**司会** ところで平成一四年度から、いわゆる新教育課程が始まるんですが、この中身について、要約で結構ですからお話いただければと思うんですが。

ゆとりの中でたくましく生きる力をつける

**高橋** すでに存じかと思いますが、大きな変化は学ぶ量を少なくするということです。したがって、学ぶ科目も当然少なくなる。これは学校完全五日制に対応してのことで、そして、狙い通りいけば、ゆとりを作って、ゆとりの中でたくましく生きる力をつけるということなんだろうと思います。卒業出来る単位も八十単位から七四単位に、週当たりの授業時間数も、今の三三時間が三〇時間になります。

簡単に言えば、教える内容を減らしていくということ。その一方で、新しい時代のいろんな課題に 대응することが出来るように、今までなら教科の枠で教えられなかった問題、例えば、環境問題なのですが、それらを勉強するための時間を総合的な学習時間として、新たに設けています。

**司会** それが一番大きな目玉ということなんだろうが、うまく行くんでしょうか。前にも改定があつて、ゆとりの時間ということをやつて、それが必ずしも本来の狙い通りにはいかず、ゆとりよりも受験勉強の時間に向けられたとか、水高は随分残っているほうです。

が、県内の進学校では結構行事などを削ったりしたところもありました。ある意味での予備校化ですよ。その辺のところを親の立場から考えるとどうですか。

**油井** 親の立場、子供の立場からすれば、受験競争のスタートラインに立って目的のゴールラインに到達したいということを考えれば、やっぱり過激競争になる可能性はあると思うんですよ。

この改定は小学校も中学校も合わせての改定でしょうが、ゆとりの時間といっても、高校から上の学校へ行くという目的を持つていけば、時間はやっぱりそっちに向くと思うんですよ。前の改定と同じで、親から見れば、あまり効果はないんじゃないか。やはり競争が熾烈になって、受験対応に走つたほうが勝つというような状況になりかねないと思います。

個人的に自分のやりたいことが出来る制度であつて欲しい

**及川** 教育改革ということは、私にはよくわからないんですが、よく一般に言われている、いい学校に入ったということだけで終わってしまうんではなくて、その人が何をやりたかったのか、それが本当に出来たのかということのほうが重要だと思つてますよ。子供達が、個人的に自分のやりたいことがやれる、そういう制度だったらもつといい。目標を決めれば、余裕も逆に出て来るし、勉強する意

欲も出て来ると思つてますよ。

**高橋** 新課程の実施はまだですが、実施されていない段階で批判する人がいっぱいいますよね。

それは何かというと、学力低下になるんじゃないかということなんです。それを最初に問題にしたのは、大学の先生達です。最近の大学生は分数の計算も出来ないとか、明らかに学力が低下しているのが小中高の教育だから、実施される前から批判されるんですね。

**司会** 片や自分の子供の事を考えると、いい学校に入りたい。ところが最近の少年犯罪など世の中を見ると、勉強ばかりではなく、人間としての教育をしっかりと欲しいという声も強い。

**オッパイは「あげる」ではなくて「やる」もの**  
**油井** 親の立場から言うと、こういう子供達を作つたということは、私達親の責任ではないかと自戒もします。子供と対話すると言いますが、対話するというのは、対等な立場で話すことで、親子が対等な立場で話すことなんてあり得ないと思つてます。乳児にオッパイを「あげる」のではなく、「やる」のであつて、その辺のところから親の意識がおかしくなっている。

子供達をおかしくしたのは、私達親に相当の責任があるのだと思つてますけれども。

言うまでもなく、残すべき良き伝統というのはあるわけですが、一方、世の中の変化によつて変わらざる得ない部分もあるはずですよ。どのような水高像を胸に抱き、取り組んでいかなければならないのか、課題があるとしたら、何なのかあげて欲しいのですが。

郷土のことをよく知っている水高生に

**及川** 生徒達には水沢をはじめとする自分の郷土のこと自体をもつとわかつてもらう努力が必要ではないでしょうか。単なる一進学校ではなくて、水沢にある水沢高校なんだという自覚です。

例えば、高野長英にすごく詳しい、あるいは、後藤新平については何でも知つていて、そういう知識をも合わせ持つことが必要なのではないかと。私は観光協会にも関係しているのですが、水沢の人自体が水沢のことを知らない。観光客が来ても、水沢を案内することが出来ない。水沢ほど観光資源が多いところはそうないと思つてます。

そういう意味での水沢高校らしさということが、もつと出て来てもいいんじゃないでしょうか。

**高橋** 確かにそうですね。外国人に対して、日本人が日本のことを説明出来ない。ここを突き詰めていけば、水沢の人が水沢のことを説明出来ないということに行き着きますよね。国際理解などと言っていますが、まず自分の身近なことを知ることが、国際理解への第一

東北でも他に比類ない恵まれた環境

**及川** 先生達には頑張つてもらつているんだけど、水高を見れば、ハードの面、設備も環境も素晴らしいと思つてます。ですから、子供達は、勉強したいという意欲さえあれば、いくらでも勉強できる幸せな環境にあると思つて。

**司会** 八〇周年記念の志学館、あの設備は東北六県にもそうはないですよ。冷暖房があつて、衛生放送が受信出来、大型テレビがあつて、随分活用されている。同窓会、PTAのご尽力があつたからこそです。

**及川** 我々が出来るのはそういう面での支援です。

感謝の気持ちを忘れずに

**油井** 同窓会の依存意義と言いますか今の水高の運営が全部県費で行われているわけではなく、志学館もそうですし、水高育英会もそんなんですが、同窓会はかなり協力的なバックアップというか、援助があつて出来ることですよ。

そういうことをPTA、子供達は案外かつているようで知らないんです。同窓会がこれだけのことをして、同窓会からこれだけの恩恵を受けているんだということを積極的アピールしたほうがいいような気がするんですけどね。

**及川** 同窓会があるがたいということではなく、市内には同窓会員がいっぱいいるんです。

そういう人達に感謝するというような、そういうような気持ちは持つてもらいたいですね。

**油井** そうすれば、何かあつたら自分も手伝おうと、そういう気持ちにもつながると思つてますよ。

**及川** 何年前かに、日高神社の祭礼の後に、水高生がゴミ拾いをしたということがありましたね。強制されてではなく自主的にしたこと、そういうことが感謝の気持ちの中から出て来れば、教育効果は抜群なものだと思つてますね。これぞ本来の教育のもたらした効果と言えますね。

部活動は人間教育の場

**高橋** そういうことは教室での勉強ではなくて、人間関係とか心くばりとか気配りとかは、むしろ部活動などを通して学び、身につけていくのではないのでしょうか。部活動の指導者というのは、技術のレベルアップだけやっていけるのではなくて、同窓会長さんが言われたようなことも考えて指導しています。

二十一世紀へ向けての水高像は

**司会** さて、これまで、過去および現在の水高像についていろいろと伺つて参りました。以前に比べて覇気が不足しているとか、教師と生徒の親密度の問題とか親子関係、また、受験競争と人間形成教育の問題とかございましたが、最後に百周年を迎える二十一世紀の水高像についてお話を伺いたいと存じます。

歩ですよね。

そういうことも、新教育課程での総合学習の時間のテーマになり得るんです。今までの教科の枠組の中では学べないことをやろうということなんです。

### 人間関係をわきまえた覇気ある若者育成を

**油井** これまでもいろいろ述べてきましたが、要するに進学校としての水高という点はしっかりやって欲しいのは勿論のこととして、同時に親と子、教師と生徒、そして同期の生徒同士がお互いそれぞれを認めあって尊敬し合えるような、そういった人間関係をきちんとわきまえた人間を育てる場、また、そう成長していけるような場であって欲しいと思います。そして、もつともつと覇気をもつた若者で溢れる水高であって欲しいものです。

### 人のために汗を流すリーダー養成の場としての水高

**高橋** P T A会長さん、同窓会会長さんもリーダー的存在としての水高生に対する期待を言われましたが、それは間違いないと思います。私も水沢高校は、単なるエリートではなく、人のために汗を流すリーダーを養成する学校だと思っています。

学校の再編成が進められています。普通科には三つの方向性が考えられます。一つは、水沢高校もこれに入るでしょうが、進学校で旧制中学校の流れ。もう一つは、中学生の九

十数%は進学しているわけですから、これら生徒の多様なニーズに答えられるような、例えば不來方高校のような、いろんな選択技のある学系のあるタイプの学校。そして三つ目としては、岩谷堂高校のように幅広く科目を履修出来る総合学科の高校。

そうすると水高の進むべき道というのは、当然、いい意味でのリーダーを養成するための進学校という位置付けで進めていかなければならないかと。

先生達に、学校とは生徒のためにあるのであって、学校のために生徒がいるのではないとよく言っています。そのことをしっかりと確立していれば、いろいろな場面で判断を間違えることはないと思っています。

**油井** 確かに校長先生のおっしゃる通りだと思います。

**司会** 一先輩教師として、と言えばおこがましいのですが、私も校長先生の言われた生徒のためにある学校ということはまったくその通りだと思っています。一例を上げれば成績内規ですが、あれは絶対的な法律なんかではなく、生徒と教師両者の達成目標に他なりません。ですから、たとえば、不登校などで出席日数とか規定に達しない生徒だからといって、杓子定規にばつさりやるのではなく、生徒の将来を十分考慮した対応が絶対に必要だと思っています。会議に出て来た結果というのは、言うなれば単に生徒のみに対する評価だけではなくて、指導した教師自身への評価であると

も考えられるものですよね。それを自覚して教壇にたつてこそ、本当に生徒のためにある学校となり得るのだと信じています。

**及川** そうですね。人のために汗を流すリーダーというのは、いい表現だと思いますね。いろんな分野において、キラリ光る存在感のある人間になってもらえばいいのではないのでしょうか。

### 真・善・美を求め、さらに躍進、飛躍を

**司会** 決して水高だけで人間が出来上がるわけではなく、幼い頃からの積み重ねで人間が出来上がるでしょうが、水高での三年間は、その仕上げに近い大切な時間だろうと思います。その三年間が人間形成の貴重なものとなるよう、皆さん、水高に期待されるということですね。

百周年を迎える二十一世紀に、友愛・清新・気魄のモットーの下、真・善・美を求めて、さらに躍進、飛躍する水沢高校であることを祈念しつつ、座談会を閉じたいと思います。本日は長い時間ありがとうございました。